

2025年4月10日発行

\*\*\*\*\*

東海生研 ～メールマガジン～ 第244号

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

\*\*\*\*\*

1. 2025年度「知」の集積による産学連携推進事業

☆今年度のNPO 法人東海地域生物系先端技術研究会の予定をお知らせします。

○総会・第1回セミナー 6月24日(火) ウィンクあいち 1101

セミナー講師：株式会社TOWING(トーイング) 代表取締役CEO 西田 宏平氏

○第2回セミナー 9月4日(木) ウィンクあいち 1003

分科会別、東海バイオコミュニティから

○第3回セミナー 10月28日(火) (オンラインのみ)

○アグリビジネス創出フェア in 東海(展示会)、第4回セミナー 12月上中旬予定

.....

2. 東海地域内のセミナー・シンポ・会議等

★イベントのお知らせ

農業文化園・戸田川緑地で「VRで学ぼう! 食べものができるまで」のコーナーの出展と出向展示の実施

東海農政局は、農業文化園・戸田川緑地で開催されるイベント「春の物語」の期間中、「食べものができるまで」をテーマにVR(バーチャルリアリティ)で学ぶ食育体験コーナーを出展します。

また、この期間中、会場で食育に関する出向展示を実施しています。

【食育に関する出向展示】

○タイトル「食べものについて、もっと考えてみよう!」

○展示パネルに関するクイズも実施!

展示期間：令和7年4月13日(日曜日)まで

▼詳細はこちら <https://www.aichi-now.jp/spots/detail/2145/> (外部リンク)

★セミナー参加者募集のお知らせ

1 地域の共食(こども食堂)づくりオンラインセミナーの開催

【全国食育推進ネットワーク会員の取組】

全国に広がる子ども食堂は1万か所を超えています。そのような中、立ち上げや運営の課題

も見えてきています。

運営や立ち上げのサポートをした市原るり子氏の経験談が聞ける講座です。

【開催日時】 令和7年4月16日(水曜日)10時00分から1時間30分

詳細はこちら <https://www.chienowa-shokuiku.com/seminar-events> (外部リンク)

.....

### 3. その他の地域でのセミナー・シンポジウム・会議等（オンライン開催があるもの）

☆MEET UP CHUBUvol.62「アグリテック～実証フィールド×未来の農林水産業をつくる～」のご案内

「共同研究、新事業展開に向けたオープンイノベーション（協業先の探索）」を目的としたイベントプラットフォームです。大学、企業、スタートアップなど、オープンイノベーション（協業先の探索）を希望する多様な登壇者が、自らの取組や協業者に求めるニーズ・シーズの発信を通じ、中部地域発の新たなプロジェクトが次々と生まれることを目指します。

また、ここで生まれたプロジェクトは、産学官の各種支援により、事業化・社会実装の加速を目指します。是非、皆様の御参加をお待ちしています。

○テーマ：アグリテック～実証フィールド×未来の農林水産業をつくる～

○日時：2025年4月24日（木）15:30～18:00

○場所：ナゴヤイノベーターズガレージ（ナディアパーク4F）

<https://garage-nagoya.or.jp/about/access/>

※オンライン（Microsoft Teams）とのハイブリッド開催

○定員：会場80名（先着順）/オンライン上限なし

○参加費：無料

○主催：中部経済産業局、中部経済連合会

○共催：農林水産省

○協力：豊橋市

○プログラム：

●「未来のアグリ・フードを創るオープンイノベーションの場」

「知」の集積と活用の場 産学官連携協議会

●「牛の行動変容を促し事故を減らす 起立困難予防装置ブジダス」

NTTテクノクロス株式会社 IOWN デジタルツインプラットフォーム事業部

マネージャー 赤野間 信行 氏

●「豊かな海を可視化する！～魚数カウントシステムの展開可能性～」

ヤンマーホールディングス株式会社 技術本部 イノベーションセンター

ビジネス推進部 専任課長 高田 直也 氏

●「害虫防除と安定生産に向けた振動農業技術の開発」

SDGs に貢献する新たな植物保護技術研究開発プラットフォーム

国立大学法人九州大学大学院 理学研究院 生物科学部門 生態科学研究室

教授 立田 晴記 氏

●「日本一アグリテックフレンドリーなまち」をめざす！TOYOHASHI AGRIC MEETUP」

豊橋市 地域イノベーション推進室

●「植物の光合成機能を向上させる「グルタチオン」で農業を変える」

株式会社 WAKU 代表取締役 姫野 亮佑 氏

●「持続可能な農業への知を集める：オープンイノベーションで“共生のための農業”を探索する」

東海国立大学機構名古屋大学 未来社会創造機構 オープンイノベーション推進室

室長／株式会社 Tokai Innovation Institute 取締役 COO 寺野 真明 氏

●「ネットワーキング」

○申込はこちら：

<https://www.chubu.meti.go.jp/b35innovation/meetupchubu/event/vol62.html>

○問い合わせ先

中部経済産業局 イノベーション推進課 担当：土屋、村上、藤原

Tel：052-951-2774 Mail：bz1-chb-innovation@meti.go.jp

☆近畿アグリテックの公開セミナー「健康な土をつくる～ミミズが教えてくれること～」の講演資料・動画がホームページで公開していますので、お知らせします。

(2026年3月31日までの公開予定)

○開催日：2025年2月21日(金)

○講演：「健康な土をつくる～ミミズが教えてくれること～」

横浜国立大学・福島大学名誉教授 金子 信博 氏

○開催概要：土壌生態学の観点から、ミミズをはじめとした土壌生物のはたらきや植物との相互関係を通して健康な土壌の特徴やどのようにすれば自分の地域で健康な土づくりができるのかなどについて

<https://www.kinkiagri.or.jp/network.htm>

.....

#### 4. 2024年度の競争的研究資金について

##### 【研究開発関連】

○省庁等

☆独立行政法人日本学術振興会：「令和7(2025)年度科学研究費助成事業(研究活動スタート支援)」

☆JST：「2025年度 先端国際共同研究推進事業(ASPIRE)単独公募募集」

○民間等

☆公益信託四方記念地球環境保全研究助成基金：「2025年度研究助成」

☆公益信託仲谷鈴代記念栄養改善活動振興基金：「栄養改善に関する研究助成部門 2025年度募集」

2025年度の競争的研究資金については東海生研ホームページの「NEWS」欄に最新情報を掲載していますのでご覧下さい。<https://www.biotech-tokai.jp/>

.....

## 5. その他の情報

### (1) 新技術情報

#### ☆野菜関係

「試交 17-22」で高品質なナスをいっぱい穫ろう！—ナス新品種「試交 17-22」の栽培技術を確立—

#### 開発の背景・ニーズ

2021年に多収性で漬物加工適性の高い単為結果性とげなしナス「試交 17-22」(2021. 11. 29 登録出願)を本場で開発し、2023年より本格的に栽培が開始されています。産地から品質の良さが評価された一方、従来品種と同様の管理方法で栽培したところ、暖候期のつや無し果の発生や2月までの収量の伸び悩みが課題に挙げられました。これらの課題を克服す技術確立に取り組み、栽培指針を作成しました。

#### 成果の内容

剪定、かん水、摘葉について有効な管理方法を明らかにしました。

(1) 剪定方法：こまめな剪定（1芽切り戻し）の徹底

(2) かん水方法：少量多頻度のかん水

(3) 摘葉方法：葉の摘葉は遅めにし、多くの葉を付けておくこれらの管理方法や品種の特性をまとめ、促成栽培向けナス「試交 17-22」の栽培指針を作成しました。

#### 愛知県農業への貢献

栽培指針を活用することで、品種のスムーズな切り替えや品種特性を活かした高品質多収生産が可能となり、ナス生産者の経営安定化と産地の維持発展に貢献できます。

#### 2024年愛知県農業総合試験場の10大成果より

#### ☆水稻関係

高温登熟性に優れる水稻早生品種‘清流のめぐみ’の育成

水稻新品種‘清流のめぐみ’は、早生で高温登熟性を有する縞葉枯病抵抗性の品種育成を目標に、早生で高温登熟性に優れる‘てんたかく’を母本に、早生で縞葉枯病抵抗性を有する岐系125号を父本とする組み合わせから得られた品種である。

早植栽培での出穂期及び成熟期は‘コシヒカリ’と同等であり、縞葉枯病抵抗性と耐倒伏性、そして高温登熟性を有し、玄米の外観品質が優れる。耐冷性は‘やや強’のため、県内平坦地だけでなく中山間地域においても栽培可能である。

岐阜県農業技術センター研究報告 第21号：1～7 (2023)

.....

#### 編集後記

新しい年度がスタートしました。春の風が心地よく感じられるようになり、東海地域などでは桜が満開の季節を迎えて心が華やぎます。

さて、東海生研の事務所を移転しました。新事務所は農学部A館西6F634号室です。

これまでと同様、今後ともよろしくお願い致します。

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 中山・道村

TEL&FAX : 052-789-4586

E-mail : bio-npo2\*y4.dion.ne.jp (\*を@に書き換えてください)

URL : <https://www.biotech-tokai.jp/>

東海生研のメルマガ配信の登録（無料）ご案内

<https://www.biotech-tokai.jp/ezine-reg>

2025年5月12日発行

\*\*\*\*\*

東海生研 ～メールマガジン～ 第245号

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

\*\*\*\*\*

## 1. 2025年度「知」の集積による産学連携推進事業

☆NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会

### ◎第1回セミナー

・開催日時：2025年6月24日（火）14：20～15：40

・開催場所：ウインクあいち 1101会議室

・開催方法：会場および Zoom Webinar によるオンライン開催の併用型

・講師：株式会社 TOWING（トーイング） 代表取締役 CEO 西田 宏平 氏

講師の紹介：名古屋大学在学時に学んでいた技術を社会実装する為に、大手メーカーでの研究開発を経て、2020年にTOWINGを創業。未来永劫、おいしい作物が食べられる世界を実現するべく日々邁進しています。TOWINGでは、通常畑で3～5年かかる土づくりをわずか約1か月で可能にする、植物の炭等のバイオ炭（多孔体）に微生物を付加し、有機質肥料を混ぜ合わせて管理した人工土壌の技術「高機能ソイル技術」を活用した高機能バイオ炭「宙炭（そらたん）」を開発・販売しています。

・情報交流会 16:00～17:30

・東海生研 HP からお申し込みください。 <https://www.biotech-tokai.jp/>

.....

## 2. 東海地域内のセミナー・シンポ・会議等

☆新たな食料・農業・農村基本計画に関する説明会（東海ブロック）の参加者を募集します。

<日時>令和7年5月20日（火曜日）10時00分から12時00分（受付9時30分から）

<場所>AP名古屋8階（名古屋市中村区名駅4-10-25 名駅 IMAI ビル）

<方法>ハイブリッド方式（会場と Microsoft Teams によるオンライン配信の併用）

<主催>東海農政局 以下の URL から参加申込フォームにアクセスし、必要事項を入力の上、ご応募ください。

<https://www.contactus.maff.go.jp/j/tokai/form/kikaku/250425.html>

.....

## 3. その他の地域でのセミナー・シンポジウム・会議等（オンライン開催があるもの）

☆農林水産省は2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）に出展します

農林水産省は、2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）において、「農林水産業と食文化の発展は世界をもっと豊かにつなぐ」をコンセプトに、6月7日（土）から6月15日（日）まで展示を行います。

詳細はこちら（プレスリリース）

○<https://www.maff.go.jp/j/press/shokuhin/wasyoku/250124.html>

☆【高校生募集】2027年国際園芸博覧会 高校生ガーデン制作グループ

～ 4月から公募が始まります ～

2027年国際園芸博覧会が神奈川県横浜市で開催されます。

本博覧会の「政府出展エリア」で、ガーデンを企画制作する高校生グループを募集します。

高校生の皆さん、ガーデン制作にチャレンジしてみませんか。

▼農林水産省ホームページ（農林水産省へリンク）

<https://www.maff.go.jp/j/press/nousan/kaki/250227.html>

公募期間：令和7年4月14日（月曜日）から6月20日（金曜日）

.....

#### 4. 2024年度の競争的研究資金について

##### 【研究開発関連】

○省庁等

☆JST：「2025年度（令和7年度）社会技術研究開発事業 SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム（シナリオ創出フェーズ、ソリューション創出フェーズ）」

☆JST：「2025年度戦略的創造研究推進事業（CREST）」

○民間等

☆公益財団法人東洋食品研究所：「2026年度食品研究助成金」

☆公益財団法人ロッテ財団：「第13回（2026年度）研究助成「研究者育成助成」」

2025年度の競争的研究資金については東海生研ホームページの「NEWS」欄に最新情報を掲載していますのでご覧下さい。<https://www.biotech-tokai.jp/>

.....

#### 5. その他の情報

##### (1) 新技術情報

☆水稲関係

農研機構 ホットな話題 ～最新研究成果から～

X線CTを用いた水田のイネ根系の可視化

土中の肥料を効率的に吸収できるように根系（根の形態）を改良することは、重要です。ほ場で栽培された作物の根系を計測するには掘り出し、土を洗い流す必要があります。労力がかかるうえ、根の形が崩れるため、これまで根系の評価は困難でした。

農研機構は、X線CT（X線断層撮影）を用いて根の形を崩さずに水田で栽培したイネの根系を計測する技術を開発しました。

▽詳細はこちら▽

[https://www.naro.go.jp/publicity\\_report/press/laboratory/nics/168782.html](https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nics/168782.html)

☆水稲関係

乾田直播での計画的雑草防除を支援する「ノビエ葉齢判定アプリ」を公開

農研機構は、水稲を乾田直播で栽培した時の主要な水田雑草であるノビエの葉齢を写真から判定し、その後の生長を予測するアプリを開発し公開しました。

本アプリはスマートフォンで利用でき、ノビエの生長を予測することで、除草剤の効果的な散布時期を判断するのに役立ちます。

▽詳細はこちら▽

[https://www.naro.go.jp/publicity\\_report/press/laboratory/tarc/167469.html](https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/tarc/167469.html)

.....

編集後記

ゴールデンウィークが終わり、ツツジの美しい季節になりました。

さて、東海生研では、本年度の最初のイベントとして第1回セミナーを6月24日(火)に「ウインクあいち」で開催します。会場参加の他、オンライン参加も可能ですので、どうぞふるってご参加下さい。

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 中山・道村

TEL&FAX : 052-789-4586

E-mail : bio-npo2\*y4.dion.ne.jp (\*を@に書き換えてください)

URL : <https://www.biotech-tokai.jp/>

東海生研のメルマガ配信の登録(無料)のご案内

<https://www.biotech-tokai.jp/ezine-reg>

2025年6月10日発行

\*\*\*\*\*

東海生研 ～メールマガジン 第246号～

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

\*\*\*\*\*

1. 2025年度「知」の集積による産学連携推進事業

☆NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会

◎第1回セミナー

【開催日時】2025年6月24日（火）14:20～15:40

【開催場所】「ウインクあいち 1101会議室」

【開催方法】会場およびZoom Webinarによるオンライン開催の併用型

【演題・講師】「サステナブルな次世代農業を起点とする超順循環社会の実現に向けて」

株式会社 TOWING（トーイング） 代表取締役 CEO 西田 宏平 氏

＝株式会社 TOWING（トーイング）の紹介＝

名古屋大学発のスタートアップとして発足した TOWING は通常畑で3～5年かかる土づくりをわずか約1か月で可能にする。植物の炭等のバイオ炭（多孔体）に微生物を付加し、有機質肥料を混ぜ合わせて管理した人口土壌の技術「高機能ソイル技術」を活用した高機能バイオ炭「宙炭（そらたん）」を開発・販売しています。

TOWING の独自のバイオ炭の前処理技術、微生物培養等に係る技術を、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構が開発した技術と融合し、実用化しました。

この技術を応用し、宇宙農業実現に向けた活動・研究も活発化しています。

【情報交流会】16:00～17:30

詳細は、下記の当研究会のホームページにてご確認ください。

<https://www.biotech-tokai.jp/>

.....

2. 東海地域内のセミナー・シンポ・会議等

☆愛知県では、STATION Ai プロジェクトの一環として、愛知県農業総合試験場とスタートアップ等が連携して新しい農業イノベーションの創出を目指す「あいち農業イノベーションプロジェクト」を2021年度から実施しています。

プロジェクトでは現在、2022年度に選定した18課題について、2023年度から3年間の共同研究開発を進めていますが、農業分野における更なるイノベーション創出に向け、この度、2026年度から3年間の共同研究開発に取り組む「プロジェクト2026」を新たに立ち上げます。

つきましては、下記のとおり、農総試と共同で農業イノベーション創出を目指すスタートアップ等から広く技術提案を募集しますので、関連する企業様におかれましては、是非御応募ください。

【知事記者発表 URL】 <https://www.pref.aichi.jp/press-release/innovation2025.html>

【特設 web ページ】 <https://aichi-agri.jp>

○募集期間

募集開始：2025年5月20日（火曜日）

募集締切：2025年7月14日（月曜日）

○応募方法

特設 web ページ内の「応募用入力フォーム」にてご応募ください。

3. 他団体からのセミナー・シンポ・会議・公募等

☆「スマート農業技術の開発・供給に関する事業」の公募開始のお知らせ

生研支援センターでは、6月5日（木曜日）から「スマート農業技術の開発・供給に関する事業」の公募を開始しました。

本事業は、スマート農業技術の開発及び供給を迅速かつ強力で推進するため、様々な関係者が実施するスマート農業技術に係る研究開発の取組を支援します。

■公募期間：2025年6月5日（木曜日）～6月30日（月曜日）正午まで

■公募説明動画：2025年6月中旬までに生研支援センターのHPにて掲載予定

▼公募要領等の詳細は、下記 URL をご参照ください。（生研支援センターウェブサイト）

<https://www.naro.go.jp/laboratory/brain/smart-nogyo/offering/koubo/2025.html>

.....

4. 農林水産・食品分野の公募情報

【研究開発関連】

■省庁等

・JST：「2025（令和7）年度 研究成果展開事業 研究成果最適展開支援プログラム（A-STEP）実装支援（返済型）」

・JST：「2025年度 戦略的国際共同研究プログラム（SICORP）EIG CONCERT-Japan 第12回共同研究課題募集」

■民間等

・公益財団法人東洋食品研究所：「2026年度食品研究助成金」

・公益財団法人千里ライフサイエンス振興財団：「2025年度岸本基金研究助成」

上記、各事業及びプログラムの詳細な情報については東海生研 HP をご覧ください。

東海生研ホームページのNEWS（お知らせ）のURL <https://www.biotech-tokai.jp/>

.....

5. その他の情報

技術情報

☆野菜関係

日本のキュウリのゲノム配列を初めて高精度で解読-DNA マーカーによる品種育成を加速化-  
農研機構は、日本のキュウリ品種「ときわ」のゲノムを高精度で解読しました。キュウ

りのゲノムの解読は難しいとされてきましたが、ロングリードシーケンス技術を用いて高精度の解読に成功しました。

「ときわ」は我が国のキュウリ品種育成の素材として広く利用されてきましたが、本成果により DNA マーカーの開発が進み、キュウリの耐病性品種や耐暑性品種など、ゲノム情報に基づいた品種育成の迅速化への貢献が期待されます。

▽詳細はこちら▽

[https://www.naro.go.jp/publicity\\_report/press/laboratory/ngrc/168702.html](https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/ngrc/168702.html)

#### ☆野菜関係

施設栽培トマトの糖度を予測・制御可能に-「NARO 生育・収量予測ツール(1)果菜類」にトマト糖度制御機能を追加し、高糖度トマト生産をサポート-

農研機構は、環境や生育データから施設果菜の生育等をシミュレーションする「NARO 生育・収量予測ツール(1)果菜類」に、トマト果実の糖度を予測・制御する機能を新たに追加しました。トマトの糖度を制御することは容易ではなく、高糖度トマトの生産には収量減少のリスクを伴うため、高い技術と経験が必要でした。本機能により、目標品質に合わせたトマトの糖度と収量の制御が、同時かつ容易に可能となります。本機能は、2025年3月31日に提供を開始しました。農業データ連携基盤「WAGRI」を介して提供する「NARO 生育・収量予測ツール(1)果菜類」を契約された方が、この機能を追加料金なしで利用できます。

情報公開日:2025年5月14日(水曜日)

.....

#### 編集後記

6月に入り花々が新緑を背景にして鮮やかに映えています。各地で真夏日がしばらく続きましたが、いよいよ梅雨入りです。

さて、東海生研の第1回セミナーの開催が今月24日(火)に迫ってきました。今回の演題は「サステナブルな次世代農業を起点とする超順循環社会の実現に向けて」についてご講演をいただきます。また、交流会も16時より行いますので、どうぞふるってご参加ください。(会場参加の他、オンライン参加も可能です)。

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 中山・道村

TEL&FAX : 052-789-4586

E-mail : bio-npo2\*y4.dion.ne.jp (\*を@に書き換えてください)

URL : <https://www.biotech-tokai.jp/>

東海生研のメルマガ配信の登録(無料)のご案内

<https://www.biotech-tokai.jp/ezine-reg>

2025年7月10日発行

\*\*\*\*\*

東海生研 ～メールマガジン 第247号～

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

\*\*\*\*\*

## 1. 2025年度「知」の集積による産学連携推進事業

### ☆第2回セミナー開催のお知らせ

当研究会では、毎年、農林水産・食品産業に関わる5つの専門部会の新技術等に関する第2回セミナーを開催しています。多数のご参加をお待ちしています。

【開催日時】2025年9月4日(木)

【開催場所】ウインクあいち10階1003会議室(名古屋市中村区名駅4丁目4-38)

【開催方法】会場参加及びオンライン(Zoom Webinar)参加のハイブリッド開催

【講演部門】○食品部会 ○畜産部会 ○作物部会 ○林産部会 水産部会

【講演】講師と演題(詳細は後日ご案内します。)

\*セミナー終了後、会場内で名刺交換会を予定しています。

.....

## 2. 東海地域内のセミナー・シンポ・会議等

### ☆農林水産省東海農政局

#### 災害用備蓄食品活用レシピの紹介

東海農政局では、愛知学院大学健康科学部健康栄養学科公衆栄養学ゼミナールの協力を得て、災害用備蓄食品活用レシピを紹介しています。

最新号はアルファ化米を中心としたレシピを紹介しています。ぜひご覧ください。

詳細はこちら▼

<http://www.maff.go.jp/tokai/shohi/seikatsu/heyarental/index.html>

.....

## 3. その他の地域でのセミナー・シンポジウム・会議等(オンライン開催があるもの)

### ☆茶業研修コース オープンキャンパス2025を開催します 8/19(火)

農研機構 果樹茶業研究部門では、茶業の担い手、指導者となる人材の育成を目的とした2年間の研修を金谷茶業研究拠点において実施しています。

オープンキャンパス2025は、施設の見学と合わせて本研修制度を紹介し、多くの方々に理解と関心を深めてもらうことを目的としています。

▽詳細はこちらから▽

[https://www.naro.go.jp/laboratory/nifts/contents/nougi\\_kensyu/opencampus/index.html](https://www.naro.go.jp/laboratory/nifts/contents/nougi_kensyu/opencampus/index.html)

.....

## 4. 農林水産・食品分野の公募情報

## 【研究開発関連】

### ■省庁等

- ・農林水産省（農村振興局）：「令和7年度官民連携新技術研究開発事業」
- ・JST：「2025年度 戦略的国際共同研究プログラム（SICORP）EIG CONCERT-Japan 第12回共同研究課題募集」

### ■民間等

- ・公益財団法人東洋食品研究所：「2026年度食品研究助成金」
- ・公益財団法人味の素の文化センター：「2025年度食の文化研究助成事業」

上記、各事業及びプログラムの詳細、その他公募情報については東海生研 HP をご覧ください。  
東海生研ホームページのNEWS（お知らせ）のURL <https://www.biotech-tokai.jp/>

.....

## 5. その他の情報

### 【技術情報】

☆AI 利用を促進！農作物のアノテーションを効率化するプログラムを開発

—所要時間を1/5に短縮、標準作業手順書も同時公開—

農研機構は、AIによる画像処理で農作物の花や果実などを検出する際に必要なアノテーション作業（学習データを作る作業）を効率化できるプログラムを開発し、職務作成プログラムとして利用申請の受付を開始しました。

イチゴの花を用いて実証した際、本プログラムを利用することで、アノテーション作業の所要時間を、従来手法と比べて約1/5に短縮することができました。

本プログラムの使い方を記載した標準作業手順書(SOP)も併せて公開しています。

研究機関、農業関係の高校や大学、企業等の皆さまにご活用いただけます。

本成果は、AIによる農作物の画像処理の利用普及に貢献することが期待されます。

▽研究成果の詳細はこちら▽

[https://www.naro.go.jp/publicity\\_report/press/laboratory/rcar/168902.html](https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/rcar/168902.html)

▽標準作業手順書(SOP)はこちら▽

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/185>

☆温暖地の水稲移植栽培における雑草イネの総合的防除技術 三重県農業研究所・農産研究課  
温暖地の水稲移植栽培における雑草イネの総合的防除技術として、6月以降の晩植および2回代かきと雑草イネに有効な除草剤を2回目の代かき時と移植時を基本に前年の雑草イネの発生量等に応じて追加する除草剤体系との組み合わせが有効である。

[背景・ねらい] 雑草イネが全国的に増加し、問題となっている。本県においても発生地は増加傾向にあり、地域によっては蔓延する圃場もみられる。一方、これまでに水稲移植栽培における雑草イネの防除技術が長野県等により開発されているが、3~4回の有効な除草剤に

加え、手取り除草が必須で、既に蔓延した地域においての対策としては労力やコスト面での負担が大きい。そこで、本県における雑草イネの発生生態等を考慮した耕種的防除と有効除草剤体系による手取り除草を前提としない総合的防除技術を開発し、現地圃場において有効性を実証する。

▽詳細はこちらから▽<http://www.pref.mie.lg.jp/nougi/hp/74882027005.htm>

.....

#### 編集後記

今年度の総会、第1回セミナーを無事終えることができました。セミナーでは(株)TOWINGの西田様にご講演いただき、活発な質疑応答が行われました。西田様の講演資料は東海生研HPに掲載いたします。セミナー動画はYouTubeにして後日、限定公開します。

また、第2回セミナーは9月4日(木)にウインクあいちで開催いたします。5つの専門部会(食品、畜産、作物、林産、水産)の新技术等に関する講演です。詳細はメルマガ、東海生研HPでお知らせいたします。

各地で猛暑日が続いています。体調の管理には十分お気をつけてください。

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 中山・道村

TEL&FAX : 052-789-4586

E-mail : bio-npo2\*y4.dion.ne.jp (\*を@に書き換えてください)

URL : <https://www.biotech-tokai.jp/>

東海生研のメルマガ配信の登録(無料)ご案内

<https://www.biotech-tokai.jp/ezine-reg>

2025年8月12日発行

\*\*\*\*\*

東海生研 ～メールマガジン 第248号～

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

\*\*\*\*\*

## 1. 2025年度「知」の集積による産学連携推進事業

### ☆第2回セミナー開催のお知らせ

当研究会では、毎年、農林水産・食品産業に関わる5つの専門部会の新技術等に関するセミナーを開催します。多数のご参加をお待ちしています。

【開催日時】2025年9月4日(木)

【開催場所】ウインクあいち10階1003会議室(名古屋市中村区名駅4丁目4-38)

【開催方法】会場参加及びオンライン(Zoom Webinar)参加のハイブリッド開催

#### 【講演】

○林産部会 13:10～13:50

「セルロース系バインダーを用いるバイオマス粉体の押出成形」

野中 寛 氏(三重大学 大学院生物資源学研究所 教授)

○食品部会 13:50～14:30

「お魚だって腸活したい!! ―プレバイオティクスとお魚の腸内細菌のお話―」

栃尾 巧 氏(藤田医科大学 医科プレプロバイオティクス講座 教授)

=休憩 10分=

○水産部会 14:40～15:20

「伊勢湾における生態系構造と生物生産力の変化」

曾根 亮太 氏(愛知県水産試験場 漁場環境研究部 漁場改善グループ 主任研究員)

○畜産部会 15:20～16:00

「畜産における環境問題について考える ―最新の知見に基づく検討―」

廣岡 博之 氏(京都大学大学院農学研究科 名誉教授)

○作物部会 16:00～16:40

「気候変動がカキに及ぼす影響と今後の産地展望」

林 秀輔 氏(岐阜県農業技術センター 果樹・農産物利用部 専門研究員)

\*セミナー終了後、会場内で名刺交換会を予定しています。

セミナー等は東海生研HPからお申し込み下さい。<https://www.biotech-tokai.jp/>

.....

## 2. 東海地域内のセミナー・シンポ・会議等

☆「海外展示会等への出展費用補助」を実施します!

愛知県では米国関税措置の影響を受ける県内企業の新たな海外販路開拓を支援するため、海外展示会・見本市に出展する際の費用の一部を補助します。

○海外展示会等への出展費用補助

【対象企業】 米国関税措置の影響を受ける又は受ける見込みがある、愛知県内に主たる事務所又は事業所を有する中小・中堅企業

【補助金額】 補助対象経費の3分の2以内上限50万円

【補助対象経費】 出展登録料、小間料、装飾代、備品等借上料

【補助対象事業】 日本・アメリカ合衆国以外において2025年7月15日（火）から2026年2月28日（土）までに開催されるBtoBを目的とした展示会・見本市

【申込期限】 8月29日（金）17時（必着）

【管理・運営】 愛知県アジア展開支援事業実行委員会（構成：愛知県、独立行政法人日本貿易振興機構（JETRO）名古屋貿易情報センター、公益財団法人あいち産業振興機構）

【詳細】 <https://www.pref.aichi.jp/site/kanzei-portal/kaigai-expo.html>

☆三重大学大学院生物資源学研究科オープンラボ2025開催のご案内

研究科オープンラボは、参加していただく農林水産、食品、バイオ・医薬品、化学、環境科学等の関連企業や公的機関、さらに地域の方々をも含む学外に向けて、本研究科の教員および学生の日頃の研究活動を紹介する機会としております。

今回は「生物資源学を貫く地道な基礎研究で地域に貢献を」と題し、「山の頂から海の底まで」の広範な研究分野の中から、地道に進められているユニークな生物資源学研究を紹介するシンポジウムと、研究科の教員および学生が取り組む研究を紹介するポスターセッションを企画いたしました。

ご参加いただく皆様に生物資源学研究科の活動内容とその成果について知っていただくとともに、皆様との情報交換を通して生物資源学研究科の新たな展開についてご一緒に考え、今後の大学ー地域コミュニティの発展につなげることができれば幸いです。

詳しくは、以下のURLをご覧ください。皆様のご来場を心よりお待ちしております。プログラム詳細 URL

<https://www.bio.mie-u.ac.jp/cate/news/openlab2025.html>

▼開催日時：2025年9月19日（金）13:00～17:00（受付12:15～）

▼開催場所：三重大学 共通教育校舎、環境・情報科学館

<https://www.bio.mie-u.ac.jp/files/open-lab-map2025.pdf>

▼開催内容：教員によるシンポジウムおよび教員・学生によるポスターセッション

▼参加対象者：農林水産、食品、バイオ・医薬品、化学、環境科学などの関連企業や公的機関の方、地域共創などに興味のある一般の方、学生など

▼申込方法：以下のリンクからお申し込みください（締切9月9日（火））

<https://forms.office.com/r/w86uiXqmpi>

■お問合せ先

三重大学大学院生物資源学研究科チーム総務担当 齋藤・竹中

TEL：059-231-9502

E-Mail：renkei(a)bio.mie-u.ac.jp ※「(a)」を「@」に変えてください。

.....

3. その他の地域でのセミナー・シンポジウム・会議等（オンライン開催があるもの）

☆【募集】「アグリビジネス創出フェア 2025」の出展者等の募集（8月22日まで）

農林水産省では、全国のスマート農業技術メーカーやスタートアップ等が参加して、農林水産・食品分野等の最新の研究成果を分かりやすく紹介し、出展者と来場者のマッチングを促す「アグリビジネス創出フェア 2025」を開催します。今年は「スマート・スタートアップー 先端技術で未来を拓く農林水産イノベーション」をテーマに、令和7年11月26日（水）から11月28日（金）まで、東京ビッグサイトにおいて開催します。

開催に先立ち、8月5日（火）から8月22日（金）まで、本フェアへの出展者等を募集します。出展要件等の詳細は、下記公式サイトを御確認下さい。

■「アグリビジネス創出フェア 2025」について

日時：令和7年11月26日（水）～28日（金） 10:00～17:00

会場：東京ビッグサイト西展示棟（西3ホール）（東京都江東区有明3-11-1）

出展料：無料（小間装飾、電気使用料等は御負担いただきます。）

入場料：無料

主催：農林水産省

■出展者等の募集について

「アグリビジネス創出フェア 2025」への出展等を希望する機関を募集します。

出展等を希望される場合は、公式サイトより出展要件等を御確認の上、お申込み下さい。

公式サイト：<https://agribiz.maff.go.jp/2025/>

募集期間：令和7年8月5日（火）～8月22日（金）

申込先：アグリビジネス創出フェア 2025 事務局（株式会社フジヤ内）電話 03-3533-5522

メール [agri-ex★fujiya-net.co.jp](mailto:agri-ex★fujiya-net.co.jp)（※「★」は半角の「@」に置き換えてください）

☆ニッポンフードシフト表彰事業「食と農をつなぐアワード 2025」を募集

農林水産省では、令和3年度から「食から日本を考える。ニッポンフードシフト」に取り組んでいます。令和7年度においては、新たに表彰事業「食と農をつなぐアワード」を創設し、持続可能な食料システムを支える取組を表彰します。

<募集部門>

(1)食料の安定供給 (2)食品アクセスの確保 (3)持続的食料システムの確立

(4)スマート農業技術等の開発・普及

<応募期間（一次審査エントリー）>

令和7年7月1日（火）～8月12日（火）17時必着

詳細はこちら▼

[https://nippon-food-shift.maff.go.jp/2025/aw\\_connect.html](https://nippon-food-shift.maff.go.jp/2025/aw_connect.html)

茶業研修コース オープンキャンパス 2025 を開催します 8/19（火）

☆「2025年度農業生物資源ジーンバンク事業シンポジウム」を開催（9月3日）

農業生物資源ジーンバンク事業では、植物病原菌を主体とした多様な微生物遺伝資源を収集・保存し、研究開発のために提供してきました。

一方で、農業を取り巻く環境は多様化し、植物病原菌に限らず、様々な微生物遺伝資源

の活用が進められています。本シンポジウムでは、ジーンバンク事業で収集した微生物遺伝資源を活用した学術研究をはじめ、6名の講演者による農業・産業利用への応用展開、さらに微生物菌株の取り扱いに係る国内外の法制度等についての講演を行います。講演会後には、講演者を交えたグループディスカッションを行い、今後の微生物遺伝資源利用のあり方、ジーンバンク事業に求められる役割について考えます。

**【概要】**

○日時

2025年9月3日(水)

10時00分～11時00分：ジーンバンク見学(希望者のみ)

13時00分～16時00分：講演会・グループディスカッション

○場所

ジーンバンク見学：農研機構 遺伝資源研究センター

講演会・グループディスカッション：文部科学省研究交流センター

○申込

以下のウェブサイトの申込フォームよりお申込みください。

\* 8月19日(火)17時00分締切

[https://www.gene.affrc.go.jp/event-ws\\_20250903.php](https://www.gene.affrc.go.jp/event-ws_20250903.php)

▽詳細はこちらから▽

[https://www.naro.go.jp/publicity\\_report/press/laboratory/ngrc/169797.html](https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/ngrc/169797.html)

☆農研機構 果樹茶業研究部門では、茶業の担い手、指導者となる人材の育成を目的とした2年間の研修を金谷茶業研究拠点において実施しています。

オープンキャンパス2025は、施設の見学と合わせて本研修制度を紹介し、多くの方々に理解と関心を深めてもらうことを目的としています。

▽詳細はこちらから▽

[https://www.naro.go.jp/laboratory/niffts/contents/nougi\\_kensyu/opencampus/index.html](https://www.naro.go.jp/laboratory/niffts/contents/nougi_kensyu/opencampus/index.html)

.....

4. 農林水産・食品分野の公募情報

**【研究開発関連】**

■省庁等

・JST：「大学発新産業創出基金事業 早暁プログラム 第2期 ステージ1」

■民間等

・公益財団法人ニッポンハム食の未来財団：「2026年度公募型研究助成事業」

・公益財団法人日本ワックスマン財団：「令和7年度学術研究助成金」

上記、各事業及びプログラムの詳細な情報については東海生研HPをご覧ください。

東海生研ホームページのNEWS(お知らせ)のURL <https://www.biotech-tokai.jp/>

.....

## 5. その他の情報

### (1)新技術情報

#### ☆施設園芸関係

○春～夏に遮熱剤を温室屋根面に塗布し、温室内の気温を下げる

多くの施設園芸品目では、近年夏季の異常な高温による、品質および収量の低下が課題になっています。ガーベラにおいても、従来の遮光カーテンによる高温対策のみでは不十分となっているため、今回、光合成に有効な光を通しながら、熱線を反射させる遮熱剤の効果を検討しました。

4月下旬に遮熱剤を塗布後、9月下旬に除去するまでの温室内の日平均気温は約0.5度低下し、ガーベラ‘サンディ’の販売可能な切り花本数は、10月末までの期間において、約30%増加しました。また、7月中旬に再度塗布を行うことで、更に約15%の増収が確認されました。切り花品質においても、茎径が太くなる、切り花重が増加するなど、品質向上効果がみられました。また、遮熱剤塗布により熱線を遮断することで、高温期における温室内での作業性向上効果も期待されます。

今後も夏季の異常な高温が想定されますので、ガーベラ等施設栽培環境の改善につながるように、高温対策技術の開発に取り組む計画です。

(静岡県農林技術研究所 花き生産技術科)

URL : <https://www.pref.shizuoka.jp/sangyoshigoto/norinjimusho/1058658/index.html>

#### ☆穀物貯蔵関係

○大規模な低酸素環境で殺虫を実現

-地球環境に優しい窒素ガス置換殺虫技術-

農研機構は、窒素ガス置換により、酸素濃度0.1%、温度30℃の条件を4日間維持することで、貯蔵穀物の害虫を殺虫できる技術を開発しました。本法は、化学くん蒸剤に替わる環境に優しいガス置換殺虫技術として植物検疫を含め広範囲に適用できます。特に穀物、乾燥食品原料、香辛料に対して薬剤を使用しない大規模な殺虫に応用が期待されます。

▽研究成果の詳細はこちら▽

[https://www.naro.go.jp/publicity\\_report/press/laboratory/nfri/169339.html](https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nfri/169339.html)

.....

#### 編集後記

夏本番となりセミの声も早朝から部屋の中まで届いています。各地で厳しい暑さが続いており、熱中症で救急搬送されているニュースが連日報道され、対策の徹底が報じられています。また、猛暑によるコメなど農産物への被害も大変気になるところです。

さて、9月4日に第2回セミナーを開催いたします。セミナーでは、食品・作物・畜産・林産・水産の各分野の新しい技術開発のための情報提供を行っています。皆様のご参加をお待ちしています。

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 中山・道村

TEL&FAX : 052-789-4586

E-mail : bio-npo2\*y4.dion.ne.jp (\*を@に書き換えてください)

URL : <https://www.biotech-tokai.jp/>

東海生研のメルマガ配信の登録 (無料) ご案内

<https://www.biotech-tokai.jp/ezine-reg>

2025年9月10日発行

\*\*\*\*\*

東海生研 ～メールマガジン 第249号～

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

\*\*\*\*\*

1. 2025年度「知」の集積による産学連携推進事業

☆第3回セミナー開催について

【開催日時】2025年10月28日（火）午後から開催

【開催方法】オンライン（Zoom Webinar）開催

詳細は決まり次第、メルマガ・HPでお知らせいたします。

.....

2. 東海地域内のセミナー・シンポ・会議等

★東海農政局 消費生活課からのお知らせ

・東海農政局は東海学院大学健康福祉学部医療栄養学科と連携し「イオンモールのSDGsフェス」に出展

東海農政局は東海学院大学健康福祉学部医療栄養学科と連携し、イオンモール各務原インター店が開催するイベント「イオンモールのSDGsフェス」に出展します。

指先一つの簡単な検査で普段どれだけ野菜を摂取しているかを測定できる「野菜の摂取量を測定！」コーナーや管理栄養士による栄養相談も受けられる「いつも食べている食事の栄養バランス診断」など、楽しみながら食生活を見直すコンテンツに加え、フードドライブも併せて実施します。

お中元や買いすぎて消費する予定のない食品があればぜひお持ちください。お持ちいただいた

た食品は社会福祉法人各務原市社会福祉協議会を通じて、こども食堂等にお届けします。

（注）フードドライブとは、家庭で余っている食品を持ち寄り、まとめてフードバンク活動団体や地域の福祉施設などへ寄付する活動です。

<日時>

令和7年9月20日（土）10時00分～17時00分（最終受付16時30分）

令和7年9月21日（日）9時30分～16時30分（最終受付16時00分）

<場所>イオンモール各務原インター店 1F ノースコート（岐阜県各務原市那加萱場町3-8）

<参加費> 無料

各コーナーの詳細はこちら▼

「野菜の摂取量を測定！」

[https://www.aeon.jp/sc/kakamigahara/event/event\\_e61540\\_as.html](https://www.aeon.jp/sc/kakamigahara/event/event_e61540_as.html)（外部リンク）

「いつも食べている食事の栄養バランス診断」

[https://www.aeon.jp/sc/kakamigahara/event/event\\_e61538\\_as.html](https://www.aeon.jp/sc/kakamigahara/event/event_e61538_as.html) (外部リンク)

「なくそう食品ロス「もったいない」から「ありがとう」へフードドライブ実施」

[https://www.aeon.jp/sc/kakamigahara/event/event\\_e61537\\_as.html](https://www.aeon.jp/sc/kakamigahara/event/event_e61537_as.html) (外部リンク)

### 3. その他の地域でのセミナー・シンポジウム・会議等 (オンライン開催があるもの)

#### 【農林水産省からのお知らせ】

##### ・「ノウフク・アワード2025」募集開始

農福連携等応援コンソーシアム (事務局：農林水産省) は、農福連携に取り組んでいる優れた事例を表彰する「ノウフク・アワード2025」の募集を開始します。

農林水産業と福祉等の多様な人材が連携し、障害者等が農林水産分野で能力を発揮することによって、農林水産分野と福祉分野が抱える様々な課題の解決、障害者等の社会参画、農林水産業の維持・発展や地域活性化の実現に貢献している団体等を対象とします。

自薦も可能ですので、農福連携に取り組んでいる方々はぜひご応募ください。

<募集期間> 令和7年8月4日 (月) から令和7年9月30日 (火) まで

詳細はこちら▼

<https://www.maff.go.jp/j/press/nousin/kouryu/250804.html>

特設ウェブサイト▼

<https://noufuku.jp/award/award2025/> (外部リンク)

##### ・あなたのサステナブルな取組を国内外に発信しませんか?～「サステナアワード2025」募集開始～

農林水産省は、食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現するため、「みどりの食料システム戦略」を推進しています。その一環で、消費者庁、環境省と連携し、「あふの環 (わ) 2030 プロジェクト」を実施しています。本プロジェクトにおいて、食や農林水産業に関わるサステナブルな取組動画を表彰する「サステナアワード2025」の募集を開始します。

<募集期間> 令和7年8月1日 (金) から10月31日 (金) まで

詳細はこちら▼

[https://www.maff.go.jp/j/press/kanbo/b\\_kankyo/250801.html](https://www.maff.go.jp/j/press/kanbo/b_kankyo/250801.html)

.....

### 4. 2024年度の競争的研究資金について

#### 【研究開発関連】

##### ■省庁等

☆環境省 (執行団体：一般社団法人日本有機資源協会)：「令和7年度脱炭素型循環経済システム構築促進事業 (うち、プラスチック等資源循環システム構築実証事業) (三次公募)」

☆JST：「令和8年度 国際科学技術共同研究推進事業 地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム」

■民間等

☆うま味研究会：「第32回うま味研究会助成」

☆公益社団法人日本農芸化学会：「第23回農芸化学研究企画賞」

2025年度の競争的研究資金については東海生研ホームページの「NEWS」欄に最新情報を掲載していますのでご覧ください。 <https://www.biotech-tokai.jp/>

.....

5. その他の情報

(1)新技術情報

☆作物関係

作物の生育状態が一目でわかる！ ー生育予測技術を開発（AgriLook 愛知県版ー 開発の背景・ニーズ

作物の栽培管理作業は生育ステージに合わせて行いますが、近年の温暖化等により、作物の生育進度が大きく変化し、適正な栽培管理作業時期が変動しています。そこで、作物の生育ステージを高精度に予測するために、これまでの予測技術の改良と新たな予測技術の開発に取り組みました。

成果の内容

・過去数年の栽培データ・気温・日長から、作物や品種ごとに把握したい生育ステージを予測する技術を開発しました。・既に開発されていた技術の内、18個は現地で予測精度の

検証を重ね、7個は夏季の異常高温や暖冬に対応できるように改良し、予測精度が向上しました。

・新たな品種に対応するため、予測技術として新たに7個開発しました。

・開発した25個の技術は、JA あいち経済連、名古屋大学との共同研究で、毎日更新されるメッシュ気象データと組み合わせて栽培管理支援ツール（AgriLook 愛知県版※）としてシステム化し、指導員が生産現場でスマホ等で簡単に閲覧できるようしました。

AgriLook 愛知県版：現場指導員向けツールであり、生産者が直接使う物ではありません。

・愛知県農業総合試験場 HP:2024年愛知県農業総合試験場の10大成果

<https://www.pref.aichi.jp/nososi/>

☆園芸関係

「試交17-22」で高品質なナスをいっぱい穫ろう！

ーナス新品種「試交17-22」の栽培技術を確立ー

2021年に多収性で漬物加工適性の高い単為結果性とげなしナス 「試交17-22」

(2021. 11. 29 登録出願)を本場で開発し、2023 年より 本格的に栽培が開始されています。産地から品質の良さが評価された一方、従来品種と同様の管理方法で栽培したところ、暖候期のつや無し果の発生や2月までの収量の伸び悩みが課題に挙げられました。

これらの課題を克服する技術確立に取り組み、栽培指針を作成しました。

—ナス新品種「試交 17-22」の栽培技術を確立—

剪定、かん水、摘葉について有効な管理方法を明らかにしました。

(1)剪定方法：こまめな剪定（1 芽切り戻し）の徹底

(2)かん水方法：少量多頻度のかん水

(3)摘葉方法：葉の摘葉は遅めにし、多くの葉を付けておく

これらの管理方法や品種の特性をまとめ、促成栽培向けナス「試交 17-22」の栽培指針を作成しました。

・愛知県農業総合試験場 HP:2024 年愛知県農業総合試験場の 10 大成果

<https://www.pref.aichi.jp/nososi/>

.....

#### 編集後記

9 月に入りましたが、まだまだ厳しい暑さが続いております。農林水産物への被害が報道されており、今後の収穫量の減少や価格高騰への影響が懸念されるところです。また、体調の管理や食中毒にも気を付けて元気に頑張りましょう。

さて、10 月 28 日（火）に第 3 回セミナーをオンライン開催します。テーマ、講演者、演題等については決まり次第、メルマガ・HP でお知らせをいたしますので、第 2 回セミナー同様に奮ってご参加ください。また、アグリビジネス創出フェア in 東海を 12 月 10～11 日に開催します。これらイベントを通じて、多くの情報を得ていただければ幸いです。

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 中山・道村

TEL&FAX : 052?789?4586

E-mail : bio-npo2\*y4.dion.ne.jp （\*を@に書き換えてください）

URL : <https://www.biotech-tokai.jp/>

東海生研のメルマガ配信の登録（無料）ご案内

<https://www.biotech-tokai.jp/ezine-reg>

2025年10月10日発行

\*\*\*\*\*

東海生研 ～メールマガジン 第250号～

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

\*\*\*\*\*

1. 2025年度「知」の集積による産学連携推進事業

☆NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会

第3回セミナー（オンライン）

【開催日時】 2025年10月28日（火）13:00～16:35

【開催方法】 オンライン開催

【講演テーマ】 稲作の現状と未来

【演題・講師】

13:00-13:05 挨拶

13:05-13:45 「最近の米をめぐる状況について」

農林水産省 東海農政局 生産部 生産振興課 課長 橋本 泰治 氏

13:45-14:25 「世界最長の水田肥料試験から持続可能な施肥管理方法を考える」

愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部

環境安全研究室 主任研究員 安藤 薫 氏

14:25-14:35 休憩

14:35-15:15 「ベンチャー企業による多収性品種の開発と普及の試み」

株式会社 水稻生産技術研究所 代表取締役 地主 建志 氏

15:15-15:55 「2025年度節水型乾田直播栽培実証について

—低環境負荷の栽培を通じた持続的な農産業モデル創出へ—

中部電力株式会社 事業創造本部 アグリネクサスユニット 主任 犬飼 涼二 氏

15:55-16:35 「バイオスティミュラント最新動向と水稻栽培への応用」

(株) ファイトクローム 取締役 開発・製造本部長 河合 博 氏

=====

参加の申込み期限は10月21日（火）です。詳細、お申込みは、下記の当研究会のホームページをご覧ください。<https://www.biotech-tokai.jp/>

.....

2. 東海地域内のセミナー・シンポ・会議等

★東海農政局 消費生活課からのお知らせ

【セミナー・イベントのお知らせ】

\*令和7年度あいち食育いきいきシンポジウム～広げよう食育活動！活かそう SNS～の参加者募集

愛知県は、食育活動の情報を広く発信する手法を学ぶシンポジウムを開催します。

今回は講師として、SNSによる情報発信に詳しい一般社団法人 SNS エキスパート協会の代表理事 後藤真理恵さんをお招きし、SNSの活用について講演していただきます。

また、SNSで積極的に情報を発信されているJAひまわりの佐藤光さん及び管理栄養士の鈴木ひかりさんから取組事例を紹介していただきます。

SNSを始めてみたいと思う方や実践力を高めたい方におすすめの内容です。ぜひご参加ください。

<開催日時> 令和7年10月20日(月) 13時30分～15時30分

<開催場所> 名古屋市中企業振興会館(吹上ホール)4階 第3会議室

<定員> 100名(要事前申込) ※定員を超えた場合、抽選により決定

<参加費> 無料

<応募締切> 令和7年9月30日(火) 必着

詳細はこちら▼

<https://www.pref.aichi.jp/press-release/2025symposium.html> (外部リンク)

参加申込はこちら(参加申込フォーム)▼

<https://forms.office.com/r/wmFHqeu3Gt> (外部リンク)

\*「秋の物語」を開催

農業文化園・戸田川緑地で季節の催し「秋の物語」を開催します。

サツマイモの収穫体験やお米の脱穀体験、謎解ウォークラリー、子ども写生会など秋の一日を楽しめるイベントです。

東海農政局は、令和7年10月13日(月・祝)に食育に取り組む目標を書いた自分だけのフォトフレームやバッジを作れるコーナーを出展します。

また、令和7年9月30日(火)～10月26日(日)に「食べものについてもっと考えてみよう！」をテーマに食育活動や災害用備蓄食品活用レシピを紹介したパネル展示を行います。

<日時> 令和7年10月11日(土)～13日(月・祝)

<場所> 農業文化園・戸田川緑地(名古屋市港区春田野二丁目3204)

詳細はこちら▼

<http://todagawa-news.sblo.jp/article/191484085.html> (外部リンク)

★「食品産業の未来を変えるロボット活用最前線(あいちロボット産業クラスター推進協議会第3回オープンセッション)」の参加者を募集します

愛知県では、食品製造業におけるロボットを活用した生産性向上をテーマとしたセミナーを開催します。国による支援施策の紹介に加え、食品製造現場での自動化の進め方、ロボットを活用した最新の自動化ソリューション事例、そして製造ロボットに関する金融支援や業界動向など、食品製造業が直面する課題の解決に向けた多角的な情報を提供します。

更に、講演終了後には、ロボットの実機展示や、ロボット導入に関する相談を出展企業に直接行えるポスターセッションも実施します。技術導入を検討されている企業の皆様にとって、貴重な情報収集および交流の機会となります。食品製造業の生産性向上に関心のある方は、是非御参加ください。

【日時】2025年10月31日（金） 午後1時から午後5時まで

【場所】食品工業技術センター 大研修室

【対象】食品製造業の生産性向上に関心のある等

【参加費】無料

【定員】60名（申込先着順）

【申込先】Web ページ <https://forms.office.com/r/sd6EBzEupH> →

【申込期限】2025年10月24日（金）

講演内容等詳しくは <https://www.pref.aichi.jp/press-release/25-3opensession.html> をご参照ください。

【問合せ先】愛知県経済産業局産業部産業振興課ロボット産業グループ

電話：052-954-6352 メール：sangyoshinko@pref.aichi.lg.jp

.....

### 3. その他の地域でのセミナー・シンポジウム・会議等（オンライン開催があるもの）

#### 【農林水産省からのお知らせ】

あなたのサステナブルな取組を国内外に発信しませんか？～「サステナアワード2025」募集開始～

農林水産省は、食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現するため、「みどりの食料システム戦略」を推進しています。その一環で、消費者庁、環境省と連携し、「あふの環（わ）2030プロジェクト」を実施しています。本プロジェクトにおいて、食や農林水産業に関わるサステナブルな取組動画を表彰する「サステナアワード2025」の募集を開始します。

<募集期間> 令和7年8月1日（金）から10月31日（金）まで

詳細はこちら▼

[https://www.maff.go.jp/j/press/kanbo/b\\_kankyo/250801.html](https://www.maff.go.jp/j/press/kanbo/b_kankyo/250801.html)

.....

### 4. 2024年度の競争的研究資金について

#### 【研究開発関連】

##### ■省庁等

☆JST：「2025（令和7）年度 研究成果展開事業 研究成果最適展開支援プログラム（A-STEP）

実装支援（返済型）」

☆JST：「令和7年度 戦略的国際共同研究プログラム（SICORP）「水素技術」における日本一

ドイツ国際産学連携共同研究」

■民間等

☆公益財団法人市村清新技術財団：「第35回（令和8年度）植物研究助成」

☆公益財団法人河川財団：「2026年度河川基金助成事業（研究者・研究機関部門）」

2025年度の競争的研究資金については東海生研ホームページの「NEWS」欄に最新情報を掲載していますのでご覧ください。<https://www.biotech-tokai.jp/>

.....

5. その他の情報

(1)新技術情報

☆生産技術関係

令和6年度 三重農研成果情報 <主要研究成果>

トラクタに装着し落水口と本暗渠を簡易に施工できる排水管理設置装置

気候変動の影響により近年、増加している短時間豪雨が一因となり、水田転換畑に作付けされる県内の小麦・大豆の単収は低迷しています。対策として、雨水を迅速にほ場外へ排水できる落水口や本暗渠の設置が有効ですが、設置には重機等が必要となることから、生産者が自身で設置することは容易ではありません。そこで、重機を使用せず生産者が排水性改善に取り組むことができるトラクタ作業機を開発しました。

お問い合わせ先 生産技術研究室 農産研究課 電話 0598-42-6359

参考になる資料 排水管理設置装置による落水口および本暗渠の施工手順書

<https://www.pref.mie.lg.jp/common/content/001201494.pdf>

☆茶生産関係

令和6年度 三重農研成果情報 <研究成果>

茶の幼木園における蒸気による雑草防除技術

除草剤を使用しない有機栽培の茶園では、幼木園での除草は刈払い機あるいは手作業で行う必要があるため、生産者への作業負荷が大きくなっています。今後、有機農業を進めるうえで、除草にかかる労働負荷の低減や省力化は非常に重要なことから、有機栽培でも利用できる蒸気を用いた乗用型除草機の利用方法の構築を行いました。

お問い合わせ先 茶業・花植木研究室 茶業研究課 電話 0595-82-3125

参考になる資料 <http://www.pref.mie.lg.jp/nougi/hp/74882027005.htm>

.....

編集後記

10月に入ってやっと少し涼しさを感じられるようになってきました。近くの公園でヒガンバナをみることで秋らしさを楽しむことができました。

10月28日(火)には、東海生研の「第3回セミナー」をオンラインで開催します。  
また、12月10日～11日に「アグリビジネス創出フェア in 東海」の出展募集等が始まりました。本メールマガジン及び当研究会ホームページに詳しいご案内を掲載していますので、ご覧いただき、是非ご参加下さい。

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 中山・道村

TEL&FAX : 052-789-4586

E-mail : bio-npo2\*y4.dion.ne.jp (\*を@に書き換えてください)

URL : <https://www.biotech-tokai.jp/>

東海生研のメルマガ配信の登録(無料)のご案内

<https://www.biotech-tokai.jp/ezine-reg>

2025年11月10日発行

\*\*\*\*\*

東海生研 ～メールマガジン 第251号～

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

\*\*\*\*\*

1. 2025年度「知」の集積による産学連携推進委託事業

☆「アグリビジネス創出フェア in 東海」の開催について

【目的】東海地域における大学、企業、公設試験場、独立行政法人等の研究開発シーズや成果を紹介する場を提供し、参加者の産学官マッチングによるビジネス創出を支援します。

【開催場所】名古屋大学 野依記念学術交流館

名古屋市千種区不老町 地下鉄 名古屋大学駅下車 2番出口 徒歩5分

【開催日時・プログラム】

・会場展示

2025年12月10日(水)野依記念学術交流館 1階

13:00-17:00 開会式 ブース展示、ポスター展示

・シンポジウム、第4回セミナー(ハイブリッド開催)

2025年12月11日(木) 野依記念学術交流館 2階

10:00-12:00 東海4県農業関係試験研究機関シンポジウム

開催テーマ「気候変動に対して取り組んでいる農業分野の研究開発」

静岡県・愛知県・岐阜県・三重県

13:00-15:00 NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会 第4回セミナー

企業、高校、団体など

・Web展示

2025年12月10日(水)―2026年1月16日(金)

東海生研 HP にて出展機関のデータ(テキスト等、映像)を公開します。

主催：NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会

共催：東海4県農業関係試験研究機関、名古屋大学大学院生命農学研究科、

東海バイオコミュニティ

後援：農研機構中日本農業研究センター

公益財団法人農林水産・食品産業技術振興協会

セミナー等は東海生研 HP からお申し込み下さい。 <https://www.biotech-tokai.jp/>

.....

2.その他の地域でのセミナー・シンポジウム・会議等 (オンライン開催があるもの)

-----

「アグリビジネス創出フェア 2025」を開催します！

-----

農林水産省は、11月26日（水）から11月28日（金）までの3日間、東京ビッグサイトにおいて、農林水産・食品分野の技術交流展示会「アグリビジネス創出フェア 2025」を開催します。

今年は、“スマート・スタートアップー先端技術で未来を拓く農林水産イノベーション”をテーマに、スマート農業技術メーカーやスタートアップ等が参加して、農林水産・食品分野等における最新の研究成果について出展するとともに、来場者と出展者のマッチングを促すツアーなど様々な企画を行います。

10月10日（金）より、来場事前登録を開始しました。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

■「アグリビジネス創出フェア 2025 スマート・スタートアップー先端技術で未来を拓く農林水産イノベーション」について

日 程： 2025年11月26日(水)～28日(金) 各日 10:00～17:00

会 場： 東京ビッグサイト西3ホール（東京都江東区有明 3-11-1）

入場料： 無料

詳 細： <https://agribiz.maff.go.jp/>

■来場事前登録

以下の URL の専用フォームから行ってください。

<https://agribiz.maff.go.jp/register>

※当日参加も可能ですが、事前登録をしていただくと入場がスムーズです。

お問い合わせ先

（事業全般について）

農林水産技術会議事務局研究推進課産学連携室

担当者：橋本、東 代表：03-3502-8111（内線 5894） ダイヤルイン：03-3502-5530

（参加手続や出展ブース・セミナーについて）

アグリビジネス創出フェア 2025 事務局（株式会社フジヤ内）

担当者：小松、飯田 電話：03-3533-5522 E-mail：agri-ex★fujiya-net.co.jp

（「★」は半角の「@」に置き換えてください）

-----  
《生研支援センターの研究委託事業に関する令和8年度予算概算要求に基づく応募前説明及び個別相談のご案内》  
-----

生研支援センターでは、幅広い分野から優れた研究課題を提案していただくことを目的に、令和8年度予算概算要求に基づいた公募事業の概要や応募に当たっての留意点、委託費の使用等に関する留意点や、研究活動における不正行為の防止等について、動画で説明するとともに、個別相談を実施します。ぜひご覧ください。

▼詳細はこちらから(生研支援センターウェブサイト)

<https://www.naro.go.jp/laboratory/brain/event/172251.html>

【動画掲載期間】

令和7年10月31日(金曜日)～

上記生研支援センターウェブサイト上に説明動画・資料を掲載しております。

【説明内容一覧】

- (1)『「知」の集積と活用の中』及び令和8年度予算概算要求について
- (2)オープンイノベーション研究・実用化推進事業の概要及び応募に当たっての留意点
- (3)スタートアップ総合支援プログラム(SBIR 支援)の概要及び応募に当たっての留意点
- (4)スマート農業技術の開発・供給促進事業の概要及び応募に当たっての留意点
- (5)委託費の使用等に関する留意点
- (6)研究活動における不正行為の防止

【個別相談】

申込受付期間：令和7年10月31日(金曜日)～12月11日(木曜日)17:00

※定員に達し次第締め切り

実施日：令和7年11月10日(月)・17日(月)・12月8日(月)・15日(月)・18日(木)

申込方法：上記生研支援センターウェブサイト上の申込フォームからお申込みください。

【問い合わせ先】

生研支援センター企画課 岡本・稲田・永井

E-mail: [brainki1@ml.affrc.go.jp](mailto:brainki1@ml.affrc.go.jp)

-----  
11月12日(水)に福岡市で開催予定の九州沖縄経済圏スマートフードチェーンプロジェクト事業化戦略会議をご案内いたします。

-----  
会議では当該プロに関連する研究の成果を発表し、パネルディスカッションとして企業の農業参入について議論する予定です。

下記 URL にて、内容を紹介しておりますのでご覧ください。オンライン参加もできますので、ご都合宜しければ参加いただけますと幸いです。

[https://www.naro.go.jp/q\\_sfc/news/171324.html](https://www.naro.go.jp/q_sfc/news/171324.html)

1.開催日時 2025年11月12日(水曜日)13時00分～17時00分

2.開催場所 パピヨン24 ガスホール(福岡県福岡市博多区千代1丁目17-1)

3.内容等(開催要領) 別紙開催要領のとおり

4.参加費 無料

5.定員 会場200名(先着順)及びオンライン配信

6.申込方法

以下の URL 又は二次元バーコードより各項目に必要事項をご記入の上、11月10日(月曜日)

17時までに申し込みください。定員となり次第、締切とさせていただきます。

URL: [https://prd.form.naro.go.jp/form/pub/naro01/q\\_sfc\\_seventhy](https://prd.form.naro.go.jp/form/pub/naro01/q_sfc_seventhy)

.....

### 3. 2025 年度の競争的研究資金について

#### 【研究開発関連】

##### ■省庁等

☆NEDO：「2025 年度第 2 回新エネルギー等のシーズ発掘・事業化に向けた技術研究開発事業（新エネ中小・スタートアップ支援制度）」

☆JST：「経済安全保障重要技術育成プログラム 2025 年度第 3 回研究開発課題公募（個別研究型）」

##### ■民間等

☆公益財団法人食生活研究会：「2026 年度研究助成」

☆公益社団法人日本農芸化学会：「第 23 回農芸化学研究企画賞」

☆一般財団法人天野エンザイム科学技術振興財団：「第 27 回酵素応用シンポジウム研究奨励賞」

2025 年度の競争的研究資金については東海生研ホームページの「NEWS」欄に最新情報を掲載していますのでご覧ください。 <https://www.biotech-tokai.jp/>

.....

### 4. その他の情報

#### (1)新技術情報

##### ☆水稲関係

○高温登熟性に優れる水稲早生品種「清流のめぐみ」の育成

2000 年代頃より水稲の登熟期における高温が影響して発生する白未熟粒が大きな問題となっている。白未熟粒は、登熟期間の高温が茎葉での同化産物供給能力（ソース）と子実での同化産物受容能力（シンク）を低下させ、胚乳細胞の肥大過程でデンプン粒の発達が不完全になり、胚乳内デンプンに間隙を生じさせ、粒内を通過する光を乱反射させ、胚乳部分が白濁して見えることで発生している。なお、「白未熟粒」は総称であり、デンプンの蓄積異常が起こる時期、すなわち粒内の白濁部位が異なることで、乳白粒、心白粒、腹白粒、背白粒、基部未熟（基白）等と呼ばれる（森田 2009）。

岐阜県平坦地域の白未熟問題は、「コシヒカリ」を代表とする早生品種において最も顕著であり、2018 年からの 5 か年の一等米比率平均値が 59.5%と低い。更に、「コシヒカリ」をはじめとする長稈の倒伏し易い品種では、登熟期の降雨や台風の影響によって倒伏すると、それに伴う登熟不良も加わって玄米外観品質を低下させている。

また、今回報告する品種の育成を開始した 2009 年当時は、県平坦地域を中心にヒメトビウンカが媒介するウイルス病の縞葉枯病が多発しており、その低減対策として、栽培的には農薬によるヒメトビウンカの防除法があるものの、品種的にはインド型品種「Modan」由来の縞葉枯病抵抗性遺伝子 *Stvb-i* の導入が最も有効と考え（桜井ら 1964）、育種目標に加えた。

本県の縞葉枯病抵抗性品種の導入状況は、晩生品種には‘ハツシモ’に Stvb-i を導入して開発した‘ハツシモ岐阜 SL’（荒井ら 2011）、中生品種には‘ほしじるし’‘あさひの夢’、‘モチミノリ’が奨励品種に採用されており、残るは早生品種のみとなっていた。そこで高温登熟性、耐倒伏性そして縞葉枯病抵抗性を有する新品種育成を進めた結果、‘清流のめぐみ’を開発したので、本稿はその育成経過と特性を報告する。

・岐阜県農業技術センター研究報告 第 21 号：1～7（2023）

<https://www.g-agri.rd.oref.gifu.lg.jp/>

#### ☆農産関係

○イチゴのアザミウマ類のハウス内侵入量低減に有効な防虫ネット資材を選定  
光反射資材（タイベック）が織り込まれた防虫ネット「スリムホホワイト 45」は、既存の 0.8mm 目合通常防虫ネットと比較して、イチゴで問題となるアザミウマ類の侵入防止効果に優れるとともに、ハウス内気温には影響を与えない。

イチゴ栽培ではアザミウマ類による果実被害が全国的な問題となっている。特に、本新品種「きらび香」を用いた超促成栽培では暖候期の栽培が長期化するため、アザミウマ類の被害がより激化することが予想される。そこで、アザミウマ類をはじめとする、イチゴで問題となる飛来性害虫に対する各種防虫ネット資材の侵入防止効果を評価し、有効な資材を選定した。併せて、各防虫ネットのハウス内気温への影響も評価した。

静岡県農林技術研究所 2024 年度 研究成果情報(植物保護・環境保全科)

<https://www.pref.shizuoka.jp/sangyoshigoto/norinjimusho/1058658/1058701/1072081.html>

#### 編集後記

11 月に入り暦の上では立冬を迎えました。秋らしい紅葉が美しい季節ともなりました。さて、10 月 28 日に「稲作の現状と未来」のテーマで第 3 回セミナーをオンライン開催し、多くの方々に参加をいただき感謝申し上げます。また、12 月 10 日?11 日に「アグリビジネス創出フェア in 東海」を名古屋大学 野依記念学術交流館で開催します。本メールマガジン及び当研究会ホームページに詳しいご案内を掲載していますので、ご覧いただき、是非、ご参加下さい。

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術 TEL&FAX：052-789-4586

E-mail：bio-npo2\*y4.dion.ne.jp（\*を@に書き換えてください）

URL：https://www.biotech-tokai.jp/

東海生研のメルマガ配信の登録（無料）ご案内

<https://www.biotech-tokai.jp/ezine-reg>

2025年12月10日発行

\*\*\*\*\*

東海生研 ～メールマガジン 第252号～

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

\*\*\*\*\*

1. 2025年度「知」の集積による産学連携推進委託事業

☆「アグリビジネス創出フェア in 東海」

≪本日、開催いたします！！ 13時から会場展示、ポスター展示をしています≫

【開催場所】名古屋大学 野依記念学術交流館

名古屋市千種区不老町 地下鉄 名古屋大学駅下車 2番出口 徒歩5分

【開催日時・プログラム】

★会場展示

2025年12月10日（水）野依記念学術交流館 1階

13:00—13:20 開会式

13:20—17:00 ・ブース展示、ポスター展示

企業、高校、大学、公設試、行政など

出展機関の出展内容の紹介を東海生研 HP に掲載します。(12/10～1/16)

技術相談（事前予約制）

入場は無料です。

★シンポジウム・発表会

2025年12月11日（木）野依記念学術交流館 1階

10:00—12:00 東海4県農業関係試験研究機関

テーマ「気候変動に対して取り組んでいる農業分野の研究開発」

静岡県農林技術研究所、愛知県農業総合試験場

岐阜県農業技術センター、三重県農業研究所

13:00—15:00 東海生研第4回セミナー（成果発表会）

岐阜県立岐阜農林高等学校、愛知県立安城農林高等学校（動物科学科・

フラワーサイエンス科）、名古屋大学大学院生命農学研究科、

カゴメ株式会社 小牧工場、ジャパンドームハウス株式会社、

下村農園（JA 西三河）、三河一色めすうなぎ研究会

★開催方法：ハイブリッド開催（会場参加+オンライン参加）

オンライン配信は Zoom Webinar で運営します。

定員：会場参加 70名 オンライン参加 300名

申込み：参加方法（会場参加・Web参加）を明記の上、

nomuramtokai@gmail.com（\*を@に変えてください）

事務局にメールでお申込みください。

件名は「アグリビジネスフェア in 東海 発表会」としてください。

★Web 展示 2025 年 12 月 10 日（水）－2026 年 1 月 16 日（金）

東海生研 HP にて出展機関のデータ（映像、テキスト等）を公開します。

【主催】NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会

【共催】東海 4 県農業関係試験研究機関 名古屋大学大学院生命農学研究科  
東海バイオコミュニティ

【後援】農研機構 中日本農業研究センター JATAFF 三河一色めすうなぎ研究会

【チラシ】

<https://www.biotech-tokai.jp/biotech/wp-content/uploads/2025/11/2025%E3%82%A2%E3%82%B0%E3%83%AA%E3%83%95%E3%82%A7%E3%82%A2%E3%83%81%E3%83%A9%E3%82%B7%E7%A2%BA%E5%AE%9A%E7%89%88.pdf>

.....

## 2. 東海地域内のセミナー・シンポ・会議等

☆2026 年度「あいち中小企業応援ファンド新事業展開応援助成金（地場産業枠・農商工連携枠）」

あいち産業振興機構では、中小企業者等が行う地域資源を活用した新製品（商品）開発、販路拡大などの新事業展開を支援するため、「あいち中小企業応援ファンド新事業展開応援助成金」を実施しています。2025 年 12 月 8 日（月）（事前確認は 2025 年 12 月 1 日（月））より、2026 年度「新事業展開 応援助成金（地場産業枠・農商工連携枠）」の申請事業者の募集期間となります。

### 1 助成金区分

#### （1）新事業展開応援助成金（地場産業枠）

県内の地域資源を活用した新事業展開のために行う事業（主要地場産業〔食料品（飲料・飼料含む）、繊維工業、家具・装備品、窯業・土石製品、伝統的工芸品産業 15 種類業種〕

#### （2）新事業展開応援助成金（農商工連携枠）

県内の地域資源の農林水産物を利用して、あいち産業科学技術総合センターや愛知県農業総合試験場等と連携して行う事業

### 2 申込み・問合せ先

公益財団法人あいち産業振興機構 新事業支援部 地域資源活用・知的財産グループ

TEL 052-715-3074 E-mail [info-chiiki@aibsc.jp](mailto:info-chiiki@aibsc.jp)

詳しくは同機構の Web サイトをご覧ください。 <https://www.aibsc.jp/support/1182/>

.....

## 3. その他の地域でのセミナー・シンポジウム・会議等（オンライン開催があるもの）

（北海道）

・グリーンテクノバンク・アグリシーズセミナー「持続的な自給飼料生産に貢献する人工衛星による草地診断システムについて」

日時：令和 7 年 12 月 17 日（水）14:00～16:30

会場：北農ビル 19 階 第 2・3 会議室（北海道札幌市中央区北 4 条西 1 丁目）

内容：<https://agri-renkei.jp/2025/11/14/8299/>

(東北)

・東北ハイテク研究会セミナー『『みどり戦略』を支える新技術の最前線：圃場健康診断・バイオスティミュラント・有機イチゴ栽培』

日時：令和7年12月15日(月) 13:30～16:00

会場：いわて県民情報交流センター 会議室 501 ([岩手県盛岡市盛岡駅西通 1-7-1](#))

形態：ハイブリッド開催

内容：<https://agri-renkei.jp/2025/11/04/8274/>

(中国四国)

・セミナー「畜産におけるアニマルウェルフェアと生産性の向上に向けたスマート技術開発の現状と未来」

日時：令和7年12月17日(水) 13:30～16:30

会場：岡山コンベンションセンター (岡山県岡山市北区駅元町 14-1)

形態：ハイブリッド開催

内容：<https://agri-renkei.jp/2025/10/10/8217/>

.....

### 3. 2024年度の競争的研究資金について

#### 【研究開発関連】

##### ■省庁等

☆JST：「2025(令和7)年度 研究成果展開事業 研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP) 実装支援(返済型)」

☆NEDO：「2025年度 ディープテック・スタートアップ支援基金/国際共同研究開発」

##### ■民間等

☆公益財団法人サッポロ生物科学振興財団：「2026年度研究助成」

☆大麦食品推進協議会：「2026年度調査・研究助成」

2025年度の競争的研究資金については東海生研ホームページの「NEWS」欄に最新情報を掲載していますのでご覧ください。<https://www.biotech-tokai.jp/>

.....

### 4. その他の情報

#### (1)新技術情報

##### ☆食品関係

○食品に含まれる糖類は、単なる甘味成分としての役割にとどまらず、製品の物性(テクスチャーや粘度など)、保存性の向上及び消費者の健康 リスクにも関わる重要な要素となっています。特に、食品に多く含まれている単糖類(グルコース、フルクトース)や二糖類(スクロース、マルトース)などは食品の加工特性に大きな影響を与えるため、これらの糖類の分析は食品業界において高い重要性を持っています。

食品工業技術センターでは、こうしたニーズに対応するため、主に高速液体クロマトグラフィー (HPLC) を用いて糖類の分析を行っています。2022 年度には EXTREMA HPLC System(日本分光(株)) が導入され、ポストカラム蛍光誘導体化法による糖類の高感度分析が可能となりましたので紹介いたします。

あいち産業科学技術総合センター食品工業技術センターニュース 2025 年 11 月号

#### ☆稲作関係

○「コシヒカリ」に適用できる被膜のプラスチック量を削減した全量基肥栽培用肥料

[要約] 三重県の水稲「コシヒカリ」向けの新たな全量基肥栽培用肥料は、環境負荷低減を図るため、被膜に含まれるプラスチック量を削減した肥効調節型肥料を配合している。従来の県内「コシヒカリ」向け全量基肥栽培用肥料と同等の収量と品質を得ることができる。

[背景・ねらい] 水稲で使用される主要な全量基肥栽培向け肥料は、生育に合わせ成分を徐々に溶出させる必要があるため、プラスチックを含む被膜で被覆された肥効調節型肥料が配合されている。プラスチック被膜殻は栽培後も圃場に残存し、圃場外に流出すると環境への負荷が懸念されることから、肥料メーカーは、プラスチック量を削減した肥効調節型肥料の開発を進めている。そこで、県内の「コシヒカリ」栽培に使用されている主要な全量基肥栽培向け肥料 2 種類 (A、B) について、肥料メーカーや農業関連団体と協力して収量と品質を維持しながらプラスチック量の削減が図れるよう改良を行う。

[担当] 三重県農業研究所・フード・循環研究課、伊賀農業研究室  
・令和 6 年度三重農研成果情報<普及成果>

<https://www.pref.mie.lg.jp/nougi/hp/74882027005.htm> (三重農研 HP)

.....

#### 編集後記

二十四節気の大雪も過ぎて雪の便りも聞かれます。朝晩の冷え込みが厳しくなってきましたので、体調の管理に気を付けましょう。

さて、本年の「アグリビジネス創出フェア in 東海」は、本日と明日の 12 月 10 日～11 日までの開催です。本日は企業、大学、高校、公設試などのブース展示、明日はシンポジウム、午後からは東海生研の第 4 回セミナー (成果発表) です。奮ってご参加ください。

皆様、この一年、本メールマガジンをご愛読いただき有り難うございました。来年もよろしくお願ひ申し上げます。どうぞ良い年をお迎え下さい。

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 中山・道村

TEL&FAX : 052-789-4586

E-mail : bio-npo2\*y4.dion.ne.jp (\*を@に書き換えてください)

URL : <https://www.biotech-tokai.jp/>

東海生研のメルマガ配信の登録 (無料) ご案内

<https://www.biotech-tokai.jp/ezine-reg>

2026年1月13日発行

\*\*\*\*\*

東海生研 ～メールマガジン 第253号～

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

\*\*\*\*\*

1. 2025年度「知」の集積による産学連携推進事業

☆「アグリビジネス創出フェア in 東海」のweb展示について

2025年度の「アグリビジネス創出フェア in 東海」出展機関のデータ（映像、テキスト等）を東海生研ホームページ上で2026年1月16日（金）まで公開しています。

<https://www.biotech-tokai.jp/>

「12月10日、名古屋大学内、野依記念学術交流館（アグリビジネスフェア開催日）に紺色のウィンドブレーカーの忘れ物がありました。心当たりの方は事務局までお問い合わせください。≫

☆2026年度「あいち中小企業応援ファンド新事業展開応援助成金（地場産業枠・農商工連携枠）」の募集開始について

あいち産業振興機構では、中小企業者等が行う地域資源を活用した新製品（商品）開発、販路拡大などの新事業展開を支援するため、「あいち中小企業応援ファンド新事業展開応援助成金」を実施しています。

1 募集期間 2025年12月8日（月）から2026年1月16日（金）まで（要事務局による事前確認）

2 対象者 中小企業者等（中小企業者、中小企業者グループ、小規模企業者、中小企業者団体、一般社団法人及び一般財団法人）

3 助成金区分

(1) 新事業展開応援助成金（地場産業枠） 県内の地域資源を活用した新事業展開のために行う事業（主要地場産業〔食料品（飲料・飼料含む）、繊維工業、家具・装備品、窯業・土石製品、伝統的工芸品産業 15種類業種〕

(2) 新事業展開応援助成金（農商工連携枠） 県内の地域資源の農林水産物を活用して、あいち産業科学技術総合センターや愛知県農業総合試験場等と連携して行う事業

4 対象事業（両助成金区分共通） (1)新製品（商品）開発、(2)販路拡大、(3)人材育成（(1)、(2)につながるもの）

5 申込み・問合せ先

公益財団法人あいち産業振興機構新事業支援部 地域資源活用・知的財産グループ

TEL052-715-3074 FAX 052-563-1438 <https://www.aibsc.jp/support/1182/>

.....

2. その他の地域でのセミナー・シンポジウム・会議等（オンライン開催があるもの）

☆東北地域農林水産・食品ハイテク研究会

国産小麦セミナー「パン・中華麺用小麦「夏黄金」の新たな食品への利用拡大に向けて」

開催のお知らせ

○セミナーの内容

1) 小麦品種「夏黄金」の加工適性評価

農研機構東北農業研究センター 畑作園芸研究領域 池永幸子氏

2) 栽培事例報告

(1) 宮城県の事例

宮城県古川農業試験場 作物栽培部 佐々木崇氏 (仮)

(2) 福島県の事例

福島県農業総合センター 作物園芸部畑作科 佐藤郁恵氏 (仮)

(3) 新潟県の事例

新潟県農業総合研究所 作物研究センター栽培科 佐藤徹氏 (仮)

3) 商品開発の取組み

(1) 宮城県における「夏黄金」のピザへの利用について

株式会社小川製粉 小川祐史氏

(2) 新潟県における「夏黄金」のパンへの利用について

丸榮製粉株式会社 大谷勝男氏

(3) 福島県における「夏黄金」のラーメンへの利用について

喜多方商工会議所 企業課 佐藤慎之介氏

(4) 福井県、石川県における「夏黄金」への期待

金沢製粉株式会社 寺田将紘氏

4) 意見交換

「夏黄金」の新たな食品への利用拡大に向けて

日時：令和8年1月22日(木) 13:15~15:00

開催形態：オンライン開催 (Zoom (ウェビナー) を使用)

参加費無料。定員：400名様。

☆2025年度近畿アグリハイテク公開講演会

《講演》

農作物の状態や作業内容に合わせてカスタマイズできる装置や機械、

無いなら自作してしまおう。それも低コストで！

～課題解決から生まれる農家発イノベーション～

第1部 (各演者のプロフィールは下記のチラシをご覧ください)

1. 生育環境と植物の個性をうまく調和させ、安価に手に入れられる機械を自作し、作業を省力化

稲清農園・副代表 稲山 純生さん (大阪府柏原市)

2. 観測データに基づき自作でハウス内の環境制御を自動化、目指す経営に向けてバージョンアップ

あゆみ農園・代表 西 歩さん (和歌山県岩出市)

### 3. 現場の課題を創意工夫で解決！

安価、安全、コンパクトな「選果ロボット」を開発、製品化し、農家の高齢化・人手不足に貢献

専業農家（株式会社イモテック代表取締役） 塩川 武彦さん（埼玉県川越市）

#### 第2部

参加者交流会（技術に関する質問、現場課題やアイデアなどの情報交換）

日時：2026年2月20日（金）13：00～16：20

場所：キャンパスプラザ京都 4階第2講義室

主催：NPO法人近畿アグリハイテク

#### ☆令和7年度農研機構つくば植物工場研修会

「需要予測と収量・品質予測による計画的な生産技術」

近年、異常気象などによって、農産物の需給バランス調整が困難になり、食品ロスの深刻化が進むと同時に、他方で有利販売機会の消失を招いています。

これらの課題を解消するため、令和4～6年度にかけて農産物直売所をターゲットとして、需要を予測しながら計画的・効率的に生産するマーケットイン型農業生産体系を構築するとともに、施設園芸における土地生産性向上を目指した実証プロジェクトが実施されました。そこで得られた計画生産技術の有効性事例を紹介し、スマート農業技術の社会実装を促進するため、農研機構つくば植物工場研修会を開催します。

事前予約のうえ、ぜひご参加ください。

日時：2026年1月19日（月）13時00分～16時30分

主催：農研機構 野菜花き研究部門

共催：（一社）日本施設園芸協会

「スマート農業実証プロジェクト」露地野菜・花きおよび施設園芸体系

詳細：<https://www.naro.go.jp/event/list/2025/10/172046.html>

.....

### 3. 2025年度の競争的研究資金について

#### 【研究開発関連】

##### ■省庁等

☆JST：「2025（令和7）年度 研究成果展開事業 研究成果最適展開支援プログラム（A-STEP）実装支援（返済型）」

☆JST：「ベルモント・フォーラム CRA（共同研究活動）課題募集」

##### ■民間等

☆公益財団法人山田科学振興財団：「2026年度研究援助」

☆公益社団法人新化学技術推進協会：「第15回新化学技術研究奨励賞」

2025年度の競争的研究資金については東海生研ホームページの「NEWS」欄に最新情報を掲

載していますのでご覧ください。<https://www.biotech-tokai.jp/>

.....

#### 4. その他の情報

##### (1) 新技術情報

###### ☆園芸関係

ラクに、安価に、元肥をまきましよう！露地イチジクの新型肥料を開発

愛知県の露地イチジクほ場では、長年にわたる栽培により、リン酸やカリウムが蓄積したほ場多くなっています。そこで当场では、リン酸とカリウムの含有量を抑えることで従来型肥料より施用量を10a当たり40kg分減らすと共に、作業性が良いペレット状にしてラクに撒ける新型肥料をJAあいち経済連と開発しました。

新型肥料を用いた施肥体系は従来型肥料の体系と比べて15%程度安価になります。また、当场のイチジクほ場における連用試験では、生育や収量性について従来型と遜色のない結果が得られました。この肥料は、「いちじく有機配合(8-2-2)」として2024年より供給されており、ラクで安価な施肥体系の実現に向けて普及が進んでいます。

(愛知県農業総合試験場 園芸研究部)

本研究は「全国農業協同組合連合会肥料委託試験」で実施しました。

愛知県農業総合試験場 研究短報 No. 143 2025年11月

<https://www.pref.aichi.jp/site/nososi/>

###### ☆畜産関係

理想の“さくら色”卵を求めて

～名古屋コーチン卵殻の色彩可視化システムを開発～

名古屋コーチンの卵は卵殻の鮮やかなさくら色と、その多くで卵殻表面に白い斑点がみられるのが特徴で、その外観から「桜吹雪」と呼ばれています。卵殻色は育種改良の重要な項目の一つであり、現在は分光測色計による測色と、外観の目視で評価しています。しかし、測色値だけでは人の目を見たときの色がイメージしづらい上、後から実際の色を再確認することができないという課題がありました。今回開発したシステムは、測色値をPCの画測色値の表示例面上に図で示し可視化することで、他の卵やコーチン卵の理想的なさくら色と視覚的に比較できます。また、過去の測色データの検索や表示もでき、今まで難しかった過去データとの比較も可能となりました。作業時間は従来より大幅に短縮され、測色・評価作業が省力化されました。現在、システムの精度の向上に取り組んでいます。鮮やかなさくら色の卵をお届けできるよう、このシステムを活用し、効率的に名古屋コーチンの育種改良を進めてまいります。

(愛知県農業総合試験場畜産研究部)

本研究は名城大学と共同で実施しました。

愛知県農業総合試験場 研究短報 No. 143 2025年11月

<https://www.pref.aichi.jp/site/nososi/>

.....

#### 編集後記

新年、明けましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になり、誠にありがとうございました。本年も産学連携支援による事業化促進、地域活性化等を鋭意進めてまいりますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 中山・道村

TEL&FAX : 052-789-4586

E-mail : bio-npo2\*y4.dion.ne.jp (\*を@に書き換えてください)

URL : <https://www.biotech-tokai.jp/>

東海生研のメルマガ配信の登録（無料）ご案内

<https://www.biotech-tokai.jp/ezine-reg>

2026年2月10日発行

\*\*\*\*\*

東海生研 ～メールマガジン～ 第254号

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

\*\*\*\*\*

### 1. 2025年度「知」の集積による産学連携推進事業

#### ☆個別相談について

NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会の本年度のイベントである、4回のセミナーと「アグリビジネス創出フェア in 東海」は終了しましたが、個別相談は日常的に実施しています。個別相談では、競争的研究資金の獲得支援（共同研究機関の紹介、提案内容の検討、提案書のブラッシュアップ）、事業化支援などを行っています。当研究会の事務所、あるいは、相談者の事務所を訪問してご相談対応をさせていただいておりますので、ご連絡下さい。

（連絡先）

事務局長 岩佐 E-mail:npo-tokai\*ab.auone-net.jp（\*を@に書き換えてください）  
電話：052-789-4586

.....

### 2. 東海地域内のセミナー・シンポ・会議等

☆「知の拠点あいち重点研究プロジェクトV期」公開セミナーの参加者を募集します。

愛知県及び公益財団法人科学技術交流財団では、大学等の研究シーズを活用したオープンイノベーションにより、県内主要産業が有する課題を解決し、新技術の開発-実用化や新たなサービスの提供を目指す産学行政連携の研究開発プロジェクト「知の拠点あいち重点研究プロジェクトV期」を2025年6月から実施しています。この度、海外の大学-研究機関との連携により研究を推進する国際枠に採択され、今年度の予備研究を経て本格研究を目指す10テーマについて、これまでの研究成果を広く県民や産業界の方に知っていただくため「知の拠点あいち重点研究プロジェクトV期」公開セミナーを開催します。

本セミナーでは研究発表に加え、ポスターセッションで研究者との意見交換の場も設けます。多くの皆様の御参加をお待ちしています。

○セミナー開催日時 2026年2月16日(月)午後1時から午後5時40分まで

(受付開始：午後0時30分)

○開催形式(会場及びオンライン(Zoom))会場：「知の拠点あいち」あいち産業科学技術総合センター1階 講習会室 豊田市八草町秋合 1267-1 電話：0561-76-8356

オンライン：申込完了後に配信用のURLを送付いたします。

○プログラム「スペシャリティ酵素を用いた本格的腸活・機能性ノン・ローアルコールビール製造への挑戦」始め10テーマ

詳細は

<https://www.pref.aichi.jp/press-release/kagaku/aichi-jyupuro5-kokai-seminar.html>

をご参照ください。

○参加費：無料

○定員 会場参加：100名(申込先着順) オンライン参加：定員なし

○申込 Web ページ <https://www.wixforms.com/f/7416707100140635136>

○申込期限：2026年2月10日(火)ただし、会場参加は定員に達し次第、締め切ります。

○問合せ先：公益財団法人科学技術交流財団 知の拠点重点研究プロジェクト統括部管理課  
電話：0561-76-8356、8357

メール：[juten@astf.or.jp](mailto:juten@astf.or.jp) ※原則、メールにてお問合せ下さい

.....

### 3. その他の地域でのセミナー・シンポジウム・会議等（オンライン開催があるもの）

☆《「オープンイノベーション研究・実用化推進事業」の令和8年度公募開始のお知らせ》  
生研支援センターでは、2月6日（金曜日）から「オープンイノベーション研究・実用化推進事業」令和8年度の公募を開始しました。

本事業は、産学官が連携して取り組む、将来の農林水産・食品分野での社会実装を目的とした革新的な研究シーズを創出する基礎研究や、基礎研究等の成果を社会実装するための実用化段階の研究開発を支援します。

■公募期間：2026年2月6日（金曜日）～3月10日（火曜日）正午まで

■公募説明会：2026年2月13日（金曜日）にオンラインで開催

▼公募要領等の詳細情報は、下記URLをご参照ください。（生研支援センターウェブサイト）

<https://www.naro.go.jp/laboratory/brain/open-innovation/offering/koubo/2026.html>

【お問い合わせ先】

生物系特定産業技術研究支援センター（生研支援センター）

事業推進部 イノベーション創出課（担当：渡邊、大西）

E-mail: inobe-web@ml.affrc.go.jp

☆《「スタートアップ総合支援プログラム（SBIR支援）」令和8年度公募開始のお知らせ》

生研支援センターでは、2月6日（金曜日）から「スタートアップ総合支援プログラム（SBIR支援）」令和8年度の公募を開始しました。

本プログラムでは、農林水産・食品分野における政策的・社会的な課題の解決や新たなビジネス創出に向け、研究開発型スタートアップ等の革新的な研究開発及び事業化の取り組みを支援します。

■公募期間：2026年2月6日（金曜日）～3月6日（金曜日）正午まで

（連結型研究課題：2026年2月6日（金曜日）～3月23日（月曜日）正午まで）

■公募説明会：2026年2月12日（木曜日）にオンラインで開催

▼公募要領等の詳細情報は、下記URLをご参照ください。（生研支援センターウェブサイト）

<https://www.naro.go.jp/laboratory/brain/startup/offering/koubo/R08.html>

【お問い合わせ先】

生物系特定産業技術研究支援センター（生研支援センター）

事業推進部 スタートアップ支援課（担当：五十嵐、徳山、江川）

E-mail: brain-stupweb@ml.affrc.go.jp

☆2025年度近畿アグリハイテク公開講演会

《講演》

農作物の状態や作業内容に合わせてカスタマイズできる装置や機械、無いなら自作してしまおう。それも低コストで！～課題解決から生まれる農家発イノベーション～

第1部

1. 生育環境と植物の個性をうまく調和させ、安価に手に入れられる機械を自作し、作業を省力化

稲清農園・副代表 稲山 純生さん（大阪府柏原市）

2. 観測データに基づき自作でハウス内の環境制御を自動化、目指す経営に向けてバージョンアップ

あゆみ農園・代表 西 歩さん（和歌山県岩出市）

3. 現場の課題を創意工夫で解決！

安価、安全、コンパクトな「選果ロボット」を開発、製品化し、農家の高齢化・人手不足に貢献

専業農家（株式会社イモテック代表取締役） 塩川 武彦さん（埼玉県川越市）

第2部

参加者交流会（技術に関する質問、現場課題やアイデアなどの情報交換）

日時：2026年2月20日（金）13：00～16：20

場所：キャンパスプラザ京都 4階第2講義室

主催：NPO法人近畿アグリハイテク

☆大豆多収研究発表会

-導入事例で納得!大豆安定多収を実現する農研機構開発の多収新品種と新技術-

農研機構は、大豆の安定多収を実現する多収新品種「そらみのり」と高能率と排水性を両立する新播種技術「ディスク式高速一工程播種」を開発し、普及に取り組んでいます。また、乾湿害リスクを予測する土壌水分状態の予測システムの開発を進めています。

発表会では、これら新品種、新技術の概要に加え、生産者による導入事例や導入による経営改善効果について紹介します。

生産者、企業、大学、研究機関、行政の方々など、大豆の多収安定生産に興味関心のある方の参加をお待ちしています。

日時：2026年2月25日（水）13:00～16:40（開場 12:30）

場所：レソラホール（福岡県福岡市中央区天神2丁目5-55 5階）

主催：農研機構 九州沖縄農業研究センター 農林水産省 九州農政局

全国農業改良普及支援協会

定員：会場 150名、オンライン 500名（要参加登録）

▽詳細はこちら▽

[https://www.naro.go.jp/publicity\\_report/press/laboratory/karc/173842.html](https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/karc/173842.html)

.....

#### 4. 2025年度の競争的研究資金について

【研究開発関連】

■省庁等

☆JST：「e-ASIA 共同研究プログラム 令和8年度採択「農業」領域 共同研究課題募集」

☆JST：「2025（令和7）年度 研究成果展開事業 研究成果最適展開支援プログラム（A-STEP）実装支援（返済型）」

■民間等

☆一般財団法人キーコーヒー柴田裕記念財団：「2026年度研究助成」

☆公益財団法人三島海雲記念財団：「2026年度学術研究奨励金（自然科学部門）」

2025年度の競争的研究資金については東海生研ホームページの「NEWS」欄に最新情報を掲載していますのでご覧ください。<https://www.biotech-tokai.jp/>

.....

#### 5. その他の情報

(1)新技術情報

☆農産関係

農業経営計画策定支援システムの開発とスマート農業経営指標の公開

-スマート農業の導入効果を見える化-

農研機構は、水田作におけるスマート農業導入効果を可視化するための「農業経営計画策定支援システム」を開発し、その一部を公開しました。このシステムは、スマート農業実証プロジェクトで得られたデータをもとに構築した農業経営指標と、それを活用してシミュレーションを行うWebアプリで構成されています。

スマート農業を導入した効果を簡易にシミュレーションすることができます。

▽詳細はこちら▽

[https://www.naro.go.jp/publicity\\_report/press/laboratory/naro/172799.html](https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/naro/172799.html)

☆園芸関係

「NARO 生育・収量予測ツール(2)イチゴ」の対応品種を 10 品種に拡大で品種特性に応じた生産性向上を実現

農研機構は、イチゴの収量を品種ごとに予測する API 「NARO 生育・収量予測ツール(2)イチゴ」で利用できる品種を拡大し、

- ・種子繁殖型品種「よつぼし」、「ベリーポップ はるひ」、
  - ・四季成り性品種「夏のしずく」、
  - ・一季成り性品種「恋みのり」、「いばらキッス」、「越後姫」、「かおり野」、「紅ほっぺ」
- など 10 品種で利用できるようになりました。

これにより、品種ごとの特性に応じた収量予測と栽培改善が実現できるようになりました。  
▽詳細はこちら▽

[https://www.naro.go.jp/publicity\\_report/press/laboratory/nivfs/172753.html](https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nivfs/172753.html)

.....

#### 編集後記

暦の上では二十四節季の立春を過ぎ日差しが暖かく感じられるようになりましたが、まだまだ朝晩の寒さが続いています。体調の管理には十分お気を付けてください。

さて、当研究会では皆様からの産学連携、事業化等の様々なご相談、ご要望に真摯に取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====  
特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 中山・道村

TEL&FAX : 052-789-4586

E-mail : bio-npo2\*y4.dion.ne.jp (\*を@に書き換えてください)

URL : <https://www.biotech-tokai.jp/>

東海生研のメルマガ配信の登録 (無料) ご案内

<https://www.biotech-tokai.jp/ezine-reg>

2026年3月10日発行

\*\*\*\*\*

東海生研 ～メールマガジン 第255号～

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

\*\*\*\*\*

1. 2025年度「知」の集積による産学連携推進事業

☆NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会

個別相談について

NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会の個別相談は日常的に実施しています。個別相談では、競争的研究資金の獲得支援（共同研究機関の紹介、提案内容の検討、提案書のブラッシュアップ）、事業化支援などを行っています。

【連絡先】 事務局長 岩佐 E-mail:npo-tokai\*ab.auone-net.jp

(\*を@に書き換えてください)

電話：052-789-4586

.....

2. 東海地域内のセミナー・シンポ・会議等

☆2026 中部パック

包装・食品・製パン製菓・物流機械、衛生・環境・検査機器、包装資材、食品材料など総合展

2026 中部パック「想像から創造へ ～新たなる包装のカタチ～」

会期：2026年4月22日(水)～25日(土)

会場：ポートメッセなごや

主催：一般社団法人 中部包装食品機械工業会

【2026 中部パックイベントページ】

<https://chubupack.or.jp/archives/chubupack-2026/events/>

【中部パック公式サイト】 <https://chubupack.or.jp/>

.....

3. その他の地域でのセミナー・シンポジウム・会議等（オンライン開催があるもの）

☆戦略的スマート農業技術の開発・改良プロジェクト「スマート深層施肥」成果発表会の開催について

戦略的スマート農業技術の開発・改良プロジェクト「大豆・水稻・小麦水田輪作体系における省力・高収益化を実現する環境保全型スマート深層施肥機の開発」(SA1-422J1、R5～R7)で得られた研究成果を幅広く紹介するため、成果報告会を実施し、関係者との交流を通じて研究成果の社会実装と更なる連係を構築し、開発技術の深化を図ります。

※主催

スマート深層施肥コンソーシアム

(農研機構・滋賀県農業技術振興センター・スガノ農機株式会社・有限会社フクハラファー

ム・たぐち農産株式会社)

※開催日時 2026年3月19日(木曜日)13:00~17:00(受付開始 12:00)

※開催場所 滋賀県彦根市みずほ文化センター多目的ホール

※参集範囲 生産者、生産者団体、行政・普及関係者、学生、試験研究関係者、その他関  
心のある方はどなたでもご参加いただけます。

※参加費：無料

※申込期限：2026年3月16日(月曜日)

お問い合わせ スマート深層施肥コンソーシアム事務局

Tel：084-923-5368

E-mail：gm\_smart-shinsosehi@ml.affrc.go.jp(送信の際は@を一つ削除してください)

.....

#### 4. 2025年度の競争的研究資金について

##### 【研究開発関連】

##### ■省庁等

☆農林水産省(消費・安全局)：「令和8年度 安全な農畜水産物安定供給のための包括的レ  
ギュラトリーサイエンス研究推進委託事業(うち短期課題解決型研究)」

☆JST：「2025(令和7)年度 研究成果展開事業 研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP)  
実装支援(返済型)」

☆JST：「e-ASIA 共同研究プログラム 令和8年度採択「農業」領域 共同研究課題募集」

☆NEDO：「バイオものづくり革命推進事業(第4回公募)」

##### ■民間等

☆一般財団法人杉山産業化学研究所：「2026年度研究助成」

☆一般財団法人キーコーヒー柴田裕記念財団：「2026年度研究助成」

☆一般財団法人東洋水産財団：「2026年度学術奨励研究」

☆公益財団法人本庄八郎記念お茶財団：「2026年度助成金」

2025年度の競争的研究資金については東海生研ホームページの「NEWS」欄に最新情報を掲  
載していますのでご覧下さい。<https://www.biotech-tokai.jp/>

.....

#### 5. その他の情報

##### (1)新技術情報

##### ☆農産関係

##### ワサビ苗生産における暑熱対策

ワサビは、周年出荷・周年定植が行われており、年間を通じた苗の供給が必要です。しか  
し、ワサビは暑さに弱いため、夏の苗生産が困難で、秋に定植する苗の安定供給が課題と  
なっています。これまでは北海道で夏の苗生産を行っていましたが、気温上昇や生産者の  
高齢化により生産ができなくなり、代わりとなる苗の生産体制の構築が必要となりました。

そこで、静岡県立大学と共同で育苗が可能となる環境条件（温度、湿度、光強度等）の調査を行いました。その結果、30℃以上になる時間が短く、昼夜の気温差が大きいことが育苗可能な条件であり、目安として夜温が20℃以下である環境が必要であることが分かりました。

アメダス観測地点の温度データからこの条件の地点を探索したところ、育苗生産が可能な地点は県内19か所中1か所、隣接する山梨県でも10か所中3か所と非常に限られていることが明らかになりました。これらの結果をもとに、現在は標高が950mある山梨県忍野村において、静岡県内の花生産者が利用していたハウスを利用し、ワサビ苗を生産する体制を生産者団体と連携し整えています。

しかし、近年は高標高地でも気温が上がり、今夏は最低気温が20℃を下回らない日が増えています。そのため、追加の対策として赤外線を効率的に防ぐ機能性遮光資材を利用した栽培方法の研究も進めています。

（農林技術研究所 伊豆農業研究センター わさび生産技術科）

URL：<https://www.pref.shizuoka.jp/sangyoshigoto/norinjimusho/1058658/index.html>

☆農産関係

シイタケ等の付加価値向上技術の開発

生シイタケは野菜に比べて呼吸量が多く、呼吸熱によって子実体内の水分や栄養分を消費して鮮度が失われていくため、保存できる期間が短く、海外輸出等の販路拡大の障害となっています。切り口やヒダの褐変など品質低下が顕著に現れる生シイタケを輸出するためには、鮮度保持の方法を確立することが必要です。そこで、保存条件の違いが生シイタケに与える影響を明らかにするため、効果的な保存温度と保存ガスとして使用される二酸化炭素を充填した場合の効果を確認しました。

保存期間は、アジア近辺の国々への輸送を想定して15日間に設定し、その間のシイタケの鮮度の変化について目視による外観、傘の硬度及びヒダの色差などを調査しました。

試験に使用したシイタケは店頭で陳列される状況と同様にして、1トレイに100グラム梱包したものを、保存温度を5℃と10℃、二酸化炭素の充填の有無の4条件別に7トレイ毎に保存しました。

その結果、保存温度が5℃であれば二酸化炭素の充填の有無に関わらず15日間は、販売可能な品質を保つことが出来ました。一方、10℃だと、二酸化炭素を充填しても10日程度で販売が不可能な品質にまで低下しました。15日間の保存には5℃設定が有効であることが確認できました。一方で、保存ガスの効果ははっきりしませんでした。

今後さらに遠方の国々まで生シイタケを輸送するには、保存期間を伸ばす新たな方法が必要ですが、消費者が生シイタケを購入された場合にも冷蔵庫で5℃以下で保存することでより長く美味しい状態で利用が可能です。

（静岡県農林技術研究所 森林・林業研究センター 森林育成科）

URL：<https://www.pref.shizuoka.jp/sangyoshigoto/norinjimusho/1058658/index.html>

.....

編集後記

啓蟄を過ぎて早咲き桜の便りも聞かれるようになりました。日差しにもパワーが感じられるようです。

さて、日頃より当研究会の活動にご協力をいただき感謝いたします。次年度も産学連携、事業化等の様々なご要望に対応させていただきますので、引き続きよろしくお願いいたします。

=====《メールマガジンに関するお問い合わせは》=====

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 中山・道村

TEL&FAX : 052-789-4586

E-mail : bio-npo2\*y4.dion.ne.jp (\*を@に書き換えてください)

URL : <https://www.biotech-tokai.jp/>

東海生研のメルマガ配信の登録（無料）ご案内

<https://www.biotech-tokai.jp/ezine-reg>